

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	筑波大学
設置者名	国立大学法人筑波大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文・文化学群	人文学類		47.5		35.0	82.5	13	
	比較文化学類				14.0	61.5	13	
	日本語・日本文化学類				47.0	94.5	13	
社会・国際学群	社会学類					47.5	13	
	国際総合学類				6.0	53.5	13	
人間学群	教育学類				39.0	86.5	13	
	心理学類					47.5	13	
	障害科学類					47.5	13	
生命環境学群	生物学類					47.5	13	
	生物資源学類				17.0	64.5	13	
	地球学類				15.0	62.5	13	
理工学群	数学類					47.5	13	
	物理学類					47.5	13	
	化学類				6.0	53.5	13	
	応用理工学類					47.5	13	

理工学群	工学システム学類		47.5		22.0	69.5	13	
	社会工学類					47.5	13	
情報学群	情報科学類			4.0		51.5	13	
	情報メディア創成学類				23.5	75.0	13	
	知識情報・図書館学類				30.0	81.5	13	
医学群	医学類					47.5	19	
	看護学類					47.5	13	
	医療科学類					47.5	13	
体育専門学群					2.0	49.5	13	
芸術専門学群						47.5	13	
(備考)								

## 2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>KdB(教育課程編成支援システム)  <a href="https://kdb.tsukuba.ac.jp/">https://kdb.tsukuba.ac.jp/</a>            において、検索欄に「実務経験教員」と入力、「概要・シラバス・備考欄を含む」にチェックを入れ、要件欄で「開設授業科目一覧」を選択し、検索ボタンを押すと抽出可能。下欄の「科目一覧ダウンロード」ボタンを押すと EXCEL 形式での一覧表が作成できます。</p> <p>【参考：KdB(教育課程編成支援システム)を利用したシラバスの閲覧について】  <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses/pdf/kdb_howto.pdf">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses/pdf/kdb_howto.pdf</a></p>
---

## 3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	筑波大学
設置者名	国立大学法人筑波大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

筑波大学基幹サイトにて公表 <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/info_soshiki2.html">http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/info_soshiki2.html</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	(前職) 文部科学省	H31.4.1 ~R2.3.31	他機関での経験を活かし、特に財務・施設面における本法人の管理運営業務を掌理
非常勤	(現職) 帝京大学	H31.4.1 ~R2.3.31	研究者として、かつ、大学や研究機関等での管理運営経験を活かした法人運営全般に関する助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	筑波大学
設置者名	国立大学法人筑波大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画(シラバス)の作成過程 <ul style="list-style-type: none"> <li>7月～ 各教育組織において次年度教育課程編成開始</li> <li>12月～ 学内会議においてカリキュラムの承認 チェックリストによる項目の確認</li> </ul> </li> <li>・授業計画の作成・公表時期 <ul style="list-style-type: none"> <li>4月 授業計画(シラバス)公表</li> </ul> </li> <li>・平成20年度から「シラバス作成のためのガイドライン」を作成し、それに沿って授業計画(シラバス)を作成している。</li> <li>・改定を行い、令和2年度から新ガイドラインに基づきシラバスを作成・公開する。</li> </ul>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p><a href="https://kdb.tsukuba.ac.jp/">https://kdb.tsukuba.ac.jp/</a>  ※2020年度からは、上記ページに統一される。  <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses/">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses/</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画(シラバス)によりあらかじめ学生に示した成績評価方法・基準に基づき各授業科目の学修成果の評価を行い、単位の授与又は履修の認定を行っている。</li> <li>・授業の到達目標(学修成果)として、学生がその授業科目を修得した時点で期待される、知っている・できること等を授業計画(シラバス)に明確に記載する。期待される能力等の文章をそのまま載せるのではなく、科目の内容に即した具体的な記載を行う。目標に達しているかどうかを観察測定し、成績評価に結びつけている。</li> </ul>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・客観的な指標としてGPA制度を導入し、その具体的な内容（GPAの算出方法など）を公表している。

・算出方法は次のとおり。（算出された数値の小数点第3位以下は切り捨て）

$$GPA = \frac{(\text{「A+」の単位数} \times 4.3 + \text{「A」の単位数} \times 4 + \text{「B」の単位数} \times 3 + \text{「C」の単位数} \times 2)}{GPA \text{ 対象科目の総履修登録単位数}}$$

・成績評価の評語及びGPは、次表のとおり。

標語	GP (評価点)	評価基準	参考(100点満点での目安)
A+	4.3	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている	90点以上
A	4	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている	80～89点
B	3	到達目標を達成している	70～79点
C	2	到達目標を最低限達成している	60～69点
D	0	到達目標を達成していない	60点未満

・本学のGPA制度は、「筑波大学GPA制度に係わる実施要項（学群）」を定めて実施しており、学生の学習意欲を高めるとともに教育の質の保証について一層の具体化を進め、適切な修学指導に役立てている。

・各学期末に学期・累積GPAを記載した成績通知を学生の保護者宛に行っている。

・各教育組織における「成績評価分布の目標」を設定して、成績の分布状況を把握し、適切な修学指導を行っている。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

[http://www.tsukuba.ac.jp/education/pdf/gpa\\_gaiyo.pdf](http://www.tsukuba.ac.jp/education/pdf/gpa_gaiyo.pdf)

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学士課程における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにした「筑波大学 学群スタンダード」を作成し、広く社会に公表している。</li> <li>・ディプロマポリシーをもとに、各教育組織の履修細則に基づき、各教育組織で判定を行い、卒業認定を実施している。</li> </ul>
<p>学部等名 人文・文化学群 人文学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（人文学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●専門的能力…人文系の諸学問分野の専門的知識と固有の方法論とを修得し、それに基づいて自らの取り組む問題に関する文献や原資料を調査・収集・分析することを通して、実証的に自身の考えを構築し不断に更新していくことができる。</li> <li>●コミュニケーション能力…外国語やコンピュータを的確に駆使しながら、他者に自らの考えを論理的に伝達するとともに、他者の考えを十分に理解し、対話を通じて相互に了解可能な共通認識に到達することができる。</li> <li>●想像力…「人間とは何か」という問いに根差して知性と感性を磨き、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般に鋭い洞察を加え、現代世界の諸課題の発見と解決に果敢に挑戦し、人類の未来へとまなざしを向けることができる。</li> </ul>
<p>学部等名 人文・文化学群 比較文化学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（比較文化）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ひとつの学問領域に留まることのない、複眼的な知力と逞しい問題解決能力を備えている。</li> <li>●文献資料のみならず多様なメディアやフィールドを広く調査し、批判的に情報を解釈する能力を備えている。</li> <li>●独創的な着眼点、徹底した資料収集、堅実で粘り強い文献読解、卓抜な構成力、論理的一貫性などを有した、高度な論文執筆能力を備えている。</li> <li>●自国の文化伝統を踏まえつつ、グローバル化する社会の文化的多様性を理解する姿勢と教養を備えている。</li> <li>●グローバル化する社会に貢献できる国際的なコミュニケーション能力を備えている。</li> <li>●多様な文化的環境に主体的に働きかけ、チームワークのもとで活動を遂行する能力を備えている。</li> </ul>
<p>学部等名 人文・文化学群 日本語・日本文化学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標および本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（文学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識（言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など）と探究能力・研究手法とを修得している。</li> <li>●異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる言語運用能力、情報処理能力および異文化間コミュニケーション能力を身につけている。</li> </ul>

<p>学部等名 社会・国際学群 社会学類</p> <p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●社会学・社会科学を広く学びつつ、多様な社会学各論の視座や方法を関連づけて理解し、複雑化する現代社会を多角的な視点でとらえることができること。</li> <li>●既存の社会制度や慣習にみられる「常識」を改めて対象化して問題化し、これを分析する能力や社会のあるべき姿を総合的に構想する力を習得していること。</li> <li>●社会的な事象を社会学的に記述し、問題提起していくコミュニケーション能力を身につけていること。</li> </ul>
<p>学部等名 社会・国際学群 国際総合学類</p> <p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際関係学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際政治学、国際法、経済学、言語学、文化人類学等の各領域の専門的知識と、ITスキルに裏打ちされた多角的な方法論を踏まえた、文理融合型の学際的見識を修得している。</li> <li>●最新の世界事情を歴史的・文化的背景を踏まえて理解し、基本的な解決策を提示する国際ガバナンスのプロセスを理解している。</li> <li>●国際学ゼミナールの議論と卒業論文の研究を通して、高度の論理的思考力と多様な価値観を前提とした表現力を習得している。</li> <li>●「ヒアリング力」、「交渉力」、「提案力」、「前向きな姿勢」、「向上心」といった基本的なヒューマン・スキルと、コンピューターによる分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを身に付けている。</li> </ul>
<p>学部等名 人間学群 教育学類</p> <p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（教育学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を備えている</li> <li>●教育に対する幅広い学識を修得し、体系的な見方・考え方ができる</li> <li>●教職などの専門職に採用される水準の教育専門家的資質・能力を備えている</li> <li>●教育学の理論と実践に関して、大学院に進学できる水準の基礎的研究能力を備えている</li> </ul>
<p>学部等名 人間学群 心理学類</p> <p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（心理学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●心理学に関する専門的知識と心理学の方法論を活用して適切にデータを収集し、科学的に分析することができる</li> <li>●研究成果を発表し、討論ができる</li> <li>●他者を理解し、協力して物事を成し遂げる態度と能力を備えている</li> <li>●英語による発表能力とコミュニケーション能力を備えている</li> <li>●公認心理師として求められる水準の知識を備えている</li> </ul>

<p>学部等名 人間学群 障害科学類</p> <p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（障害科学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●障害科学の全体的な理念・概念を理解し、障害科学に関連した障害教育、障害心理・生理、障害福祉についての基礎的知識と技能を修得している</li> <li>●障害科学に関連した問題を志向し、その問題を解決する能力と科学的思考力をもち、専門研究を展開できる基礎的能力を修得している</li> <li>●障害科学に関連したリーダーシップにつながる基礎的能力を備えている</li> <li>●障害科学に関連した英語等外国語力を修得している</li> </ul>
<p>学部等名 生命環境学群 生物学類</p> <p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然科学の理解…自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身に付けている。</li> <li>●生物学の理解…専門とする分野にとどまらず、生物学一般に関する幅広い理解を深めるとともに、多様な生物学の研究手法を身に付けている。</li> <li>●生物現象の分析能力…生物現象について実験・観察で得られたデータや膨大な生物情報を適切な手法により分析し、適確に記述し批判的に評価する能力を身に付けている。</li> <li>●国際的コミュニケーション能力…国際的に活躍するために必須となる英語力、及び自分の考えや意見を正しく分かりやすく表現するコミュニケーション能力を身に付けている。</li> <li>●論理的表現能力…卒業研究の研究課題に関連する英語学術論文を読み、その内容を研究レポートにまとめる等を通じて、学術論文の読み方と論理的表現能力を身に付けている。</li> <li>●問題発見・解決型能力と自己表現能力…最終年次に卒業研究を行うことにより、主体的に問題を発見し、解決する能力を身に付けている。また、研究成果についてプレゼンテーションを行うとともに、要旨のWeb公開を通じて、科学的表現能力を身に付けている。</li> </ul>
<p>学部等名 生命環境学群 生物資源学類</p> <p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（生物資源学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然・人間・文化の本質を理解できる幅広い知識を修得している</li> <li>●多様な生物資源利用に関する体系的な専門的知識とそれを社会で活用できる能力、あるいは大学院でさらに高度な専門的探求ができる能力を修得している。</li> <li>●生物資源の開発・利用分野における海外協力に必要な異文化理解能力とコミュニケーション能力を修得している。</li> <li>●情報通信技術（ICT）を駆使して生物資源利用に関する情報や知識を分析し、それらを内外に受発信できる。</li> <li>●農林業の発展や食料・環境問題に対する貢献意欲を持ち、卒業後も自己成長を続ける力を備えている。</li> </ul>

<p>学部等名 生命環境学群 地球学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然科学一般に関する幅広い知識を習得し、科学的な思考能力を身につけている。</li> <li>●専門能力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球学に関する高度な専門知識を修得している。</li> <li>・必要な実験機器・分析装置等を使用する技能を修得している。</li> <li>・野外での観察・観測やデータ収集を行う能力を修得している。</li> <li>・研究・調査を企画・実行し、その成果を論文等にまとめ発表する能力を修得している。</li> </ul> </li> <li>●国際性 <p>英語によるコミュニケーションを行う能力を修得している。</p> </li> <li>●プレゼンテーション <p>自分の研究成果の内容を第三者に的確に伝達する能力を修得している。</p> </li> </ul>
<p>学部等名 理工学群 数学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「学士」に相応しい教養とヒューマンスキルを身につけている。</li> <li>●自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。</li> <li>●数学の基礎である「微分積分」と「線形代数」を自在に駆使できる。</li> <li>●数学的な論理展開の方法を理解し、数学的思考力・論理力と応用力を身につけている。</li> <li>●代数・幾何・解析・情報数学のいずれかの分野における専門知識を習得している。</li> <li>●専門分野に関する基礎的な英語能力および発表能力がある。</li> </ul>
<p>学部等名 理工学群 物理学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている（数学、物理学、化学、生物学、地球科学）</li> <li>●物理学に関する専門的な知識と能力を有する。具体的には…古典物理学（古典力学、電磁気学、統計力学など）、現代物理学（量子力学など）、現代物理学の発展的内容（素粒子物理学、宇宙物理学、原子核物理学、物性物理学、プラズマ物理学、生物物理科学）。物理的現象を、基本的な物理の原理と学んだ知識をもとにして、適切な解析手法により分析する能力。実験を独力で成し遂げるとともに、実験で得られたデータを説明、分析し、批判的に評価する能力。幅広い問題の基本的分析を行うとともに、物理学のカリキュラムで得られた理論的及び実験的手法を用いることにより解決する能力。</li> <li>●自ら学び、課題を探究する能力を獲得している</li> <li>●理系学士としての基礎技能を習得している、具体的には…論文・レポートの作成の能力、自己表現・発表の能力、科学英語、計算機技術</li> </ul>
<p>学部等名 理工学群 化学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。</li> <li>●物質を分子・原子・電子・化学結合レベルで理解している。</li> <li>●自然界における普遍的な法則と未知物質・未知現象の探求、機能性物質の創製と材料開発、環境問題やエネルギー問題の解決、生命現象の解明に関する化学的基礎知識を持っている。</li> </ul>

- これらの知識と理解に裏打ちされた柔軟な思考力と国際的に活躍できる能力を持っている。
- 他人と協調して化学に関する問題を解決することができる。

学部等名 理工学群 応用理工学類

(概要)

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。

- 最先端科学技術を原子・分子レベルで原理から理解できる基礎学力を備え、さらに発展・創造できる専門知識を身につけている
- 科学技術で直面するさまざまな課題を物理、化学、生物の学際的で幅広い視点から論理的に思考できる
- チームのなかで活躍できる協調性や異分野の人とコミュニケーションして自己表現できる能力を身につけている
- 国際的に活躍することができる語学力やプレゼンテーション能力を備えている

学部等名 理工学群 工学システム学類

(概要)

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修の成果が以下に示す所定の水準に達したと認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。

- 広い分野に応用できる基礎能力については、数学・物理学・コンピュータなどに係る専門基礎科目を修め、これらの知識を応用して工学的な諸問題を分析できることを求めます。
- 広い視野を持った仕事の遂行能力については、各主専攻の専門科目を修め、これらの知識を応用して科学技術と社会の関連を理解し、新たな技術を企画し、システムを設計することなどを求めます。さらに、実験・卒業研究などで、同級生との協調・指導教員の指導などを経て、問題点に対する具体的な解決策を考案し、計画的に仕事を進められることなどを求めます。
- 社会人・職業人としての人間基本力については、外国語・実験・卒業研究などの科目を修め、コミュニケーションとプレゼンテーションができること、技術者としての倫理観を持つことなどを求めます。

学部等名 理工学群 社会工学類

(概要)

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会工学）の学位を授与します。

- 経済・企業・都市などの社会システムに関する基礎的理解と洞察力を有し、社会環境における不確実性を縮減するための具体的政策を提言することができる。
- 複雑な社会が直面する諸問題を解決するために、数学（微積分・線形代数）・統計学（データ解析）・情報技術（プログラミング）に関する知識をツールとして用いることができる。
- 現代社会が直面するグローバルな問題の本質を見極めることができる。
- 経済学・経営工学・都市計画等の多面的な視点から社会的要請に柔軟に対応できる。
- 経済学・経営工学・都市計画分野における専門家・技術者としての職業倫理を遵守できる。

<ul style="list-style-type: none"> <li>●客観的で説得力のあるコミュニケーション・スキルを持つ。</li> <li>●英語を用いた基礎的なコミュニケーション・スキルを持つ。</li> <li>●チームによる協働が必要な場合は、その一員として協調的に行動できる。</li> <li>●主体的に課題を探求し、自主的・継続的に学習することができる。</li> </ul>
<p>学部等名 情報学群 情報科学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報科学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな情報学的素養と高い社会倫理を身につけている</li> <li>●ソフトウェアサイエンスを中心とした情報科学全般にわたる高度な専門性を持つ</li> <li>●情報科学における革新的技術を生み出せる高い創造力とチャレンジ精神を備えている</li> <li>●社会の情報基盤を支える実践的技術力と問題解決能力を備えている</li> <li>●国際的に活躍できるグローバルな視野とコミュニケーション能力及び協働力を持つ</li> </ul>
<p>学部等名 情報学群 情報メディア創成学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報メディア科学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●専門性…情報メディア科学に関する概念、原理、理論、技術を体系的に理解し、それらに関する研究開発を行うことができる。</li> <li>●デザイン力…工学・科学における機能美や実現可能性を論理的思考に基づいて客観的に判断できる審美的素養を備え、それに基づいて実システムとして設計できるデザイン力を身につけている。</li> <li>●ヒューマンスキル…プロジェクトチームで協働できるコミュニケーション能力、課題発見能力、問題解決能力を身につけている。</li> <li>●倫理観…知的財産保護や個人情報保護等の技術と社会における倫理観を備えている。</li> </ul>
<p>学部等名 情報学群 知識情報・図書館学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（図書館情報学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●哲学、歴史、数理、情報など、文理にわたる幅広い基礎教養と社会に対する総合的視野を獲得していること</li> <li>●人間が知識を伝達・共有する過程を哲学、社会学、情報学の観点から理解していること</li> <li>●数量的に測るアンケート調査と数量では表すことのできない内容を扱う質的調査の双方の調査方法を理解し、分析する技術を修得していること</li> <li>●電子書籍の作成や目録検索システムの開発など、情報資源を構築・管理・提供するための技術を修得していること</li> <li>●多面的な情報検索スキルを有し、それを活用できること</li> <li>●理解した知識をよりわかりやすく人に伝えるスキルを修得していること</li> <li>●物事を多面的に眺め、文化の違いや価値観の違いを許容する姿勢を身につけていること</li> </ul>
<p>学部等名 医学群 医学類</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程における学修成果すなわち、医学類卒業時コンピテンシーを修得したと認められる者に、学士（医学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プロフェッショナリズム</li> </ul> <p>豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識と倫理観を有し、人の命と健康を守る医師になる者としての自覚と責任感をもって医療を实践できる。常に向上心を持ち、省察を行</p>

い、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。

●科学的思考

事象について、好奇心・探究心を持って科学的な視点でとらえるとともに、未知の問題を解決するための科学的な方法を理解できる。

●コミュニケーション

多職種を含むチームで連携し患者中心の医療を提供するために、患者やその家族、およびチームメンバーとの間で適切にコミュニケーションをとることができる。

●診療の実践

医療の基盤となっている基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を有し、それを応用して、患者の問題を全人的に理解し、それを解決するための適切な診療を実践できる。

●医療の社会性

人間個体はもちろん、地域・社会あるいは人類全体の問題を広くとらえ、保健・医療・福祉の関連法規、制度、システム、資源を理解した上で、社会基盤に基づく地域・社会の健康を支える活動を実践できる。

●未来開拓力

自身の未来を切り拓き、広く社会に貢献するために、グローバルな視野を持ち、困難な状況においてもたくましくしなやかに、積極果敢に挑戦する姿勢を示す。また、「教育の筑波」としての伝統を継承し、情熱をもって教育を実践し、周囲と協働してリーダーシップを発揮できる。

学部等名 医学群 看護学類

(概要)

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。

●教養教育（リベラルアーツ）の学習に裏付けられた専門科目を修得している。

●臨床で活用できる知識や技術、および高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度を身につけている。

●自ら新たな知識・技術を学ぶ態度と習慣を身につけ、未知の問題を解決する能力を獲得している。

●生涯にわたって自己学習を継続する能力を備えている。

学部等名 医学群 医療科学類

(概要)

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（医療科学）の学位を授与します。

●人間に関する幅広い知識を身につけ、生命の尊厳と倫理を尊重する人間観を学んでいる。

●人間科学の学習に必要な基礎知識と技能を修得している。

●人間の健康と疾病に関する医学的知識を修得している。

●臨床検査技術に関する基礎的な知識、技能を身につけ、臨床検査技師に必要な専門科目を修得して、臨床検査技師として備えるべき基礎学力、臨床能力ならびに倫理性を身につけている。

●検査技術分野における研究開発の実際を経験し、自ら研究を推進する基礎学力、情報収集能力ならびに自学自習能力を獲得している。

●チーム医療の役割を理解し、臨床検査技師として行動する基礎能力とコミュニケーション能力を獲得している。

学部等名 体育専門学群	
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（体育学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●幅広い運動に関する基本的な技能と初心者に対する指導力を身に付けている。</li> <li>●特定の運動種目に関する高い運動能力とアスリートに対する指導力を身に付けている。</li> <li>●体育・スポーツ・健康に関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。</li> <li>●体育・スポーツ・健康に関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。</li> <li>●嘉納治五郎先生の「精力善用・自他共栄」「一世化育」の理念を理解し、体育・スポーツ組織をマネジメントするためのリーダーシップやコミュニケーション力（外国語能力を含む）を身に付けている。</li> </ul>	
学部等名 芸術専門学群	
<p>(概要)</p> <p>芸術に関する学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（芸術学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●創造的表現力 芸術に関する独創的で柔軟な発想や思考を、美術・デザインの専門的知識・技能を駆使して適切に表現できる。</li> <li>●問題解決能力 現代における美術・デザインに関する諸問題を自発的に見出し、習得した知識・技能を活用して柔軟な考察と的確な判断によって解決できる。</li> <li>●幅広い知識に基づく論理的思考力 学際的・国際的な教育による幅広い視野と専門的な知識・経験に基づき、多様な諸課題に対して論理的な思考ができる。</li> <li>●感性豊かなコミュニケーション能力 形による感性の発信力や感性を共有し協働する能力を培い、豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーションができる。</li> <li>●自律的・社会的な創造活動のための基礎力 社会における芸術の意義と役割を理解し、美術・デザインの専門家として自律的に創造活動を継続できる。</li> </ul>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	筑波大学
設置者名	国立大学法人筑波大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/teikyo_22.html#zaimu">http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/teikyo_22.html#zaimu</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/teikyo_22.html#zaimu">http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/teikyo_22.html#zaimu</a>
財産目録	-
事業報告書	<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/teikyo_22.html#zaimu">http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/teikyo_22.html#zaimu</a>
監事による監査報告(書)	<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/teikyo_22.html#zaimu">http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/teikyo_22.html#zaimu</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:平成31年度年度計画 対象年度:平成31年度)
公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/pdf/h31keikaku_20190329.pdf">http://www.tsukuba.ac.jp/public/pdf/h31keikaku_20190329.pdf</a>
中長期計画(名称:第3期中期目標・中期計画 対象年度:平成28年度~令和3年度)
公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/pdf/h28_33chyuuki_20190329.pdf">http://www.tsukuba.ac.jp/public/pdf/h28_33chyuuki_20190329.pdf</a>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/statistics/pdf/1811nenjihokoku.pdf">http://www.tsukuba.ac.jp/public/statistics/pdf/1811nenjihokoku.pdf</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/statistics/pdf/2017houkoku.pdf">http://www.tsukuba.ac.jp/public/statistics/pdf/2017houkoku.pdf</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文・文化学群
教育研究上の目的 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
(概要) 人文系と文化系の多様な学問領域における古今東西の高度な専門知識のみならず、豊かな教養、国際的視野、優れたコミュニケーション能力を身につけ、異文化および自国文化に対する深い理解力を持つ、グローバル社会の中で真に活躍できる人材を養成します。
学部等名 人文・文化学群 人文学類
教育研究上の目的 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a> )
(概要) 「人間とは何か」という問いを根底におき、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般について主体的に考察しうるとともに、グローバル化が進展する世界における諸問題に積極的に関与し発言しうる、真に教養ある人材を養成します。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(人文学)の学位を授与します。 ●専門的能力…人文系の諸学問分野の専門的知識と固有の方法論とを修得し、それに基づいて自らの取り組む問題に関する文献や原資料を調査・収集・分析することを通して、実証的に自身の考えを構築し不断に更新していくことができる。 ●コミュニケーション能力…外国語やコンピュータを的確に駆使しながら、他者に自らの考えを論理的に伝達するとともに、他者の考えを十分に理解し、対話を通じて相互に理解可能な共通認識に到達することができる。 ●想像力…「人間とは何か」という問いに根差して知性と感性を磨き、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般に鋭い洞察を加え、現代世界の諸課題の発見と解決に果敢に挑戦し、人類の未来へとまなざしを向けることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
学士(人文学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 哲学、史学、考古学・民俗学、言語学という四つの主専攻を置き、各主専攻には専門分野毎にコース(全体として11コース)を設け、1年次から卒業まで段階的に専門知識を深く身につける充実した学修カリキュラムを提供しています。また、各授業は基本的に春学期と秋学期で完結するカリキュラムとし、在学中の海外留学などに柔軟に対応できるようにしています。 ●順次性に関する方針 教育課程前半では、専門分野に関する基礎的な能力を育てつつ、豊かな教養の涵養を重視します。教育課程後半では専門分野に関する洞察をより深め、卒業研究につながる教育内容を提供します。 1年次には「専門基礎科目(入門)」などを通じて、人文科学一般に関する広い知識を伝えるとともに、各種の共通科目によって主体的な思考の基礎となる教養を育てます。それと並行して「専門基礎科目」を通じて専門を学ぶための基礎を養います。

2年次から3年次に主専攻・コースを選択し、各分野の研究の方法論を身に付け、問題解決能力を高めます。同時に、現代世界の諸問題に対する人文学的視点の重要性を意識させるとともに、実習授業などで直接的に社会との連携や対話を深めます。さらに、演習授業では、教員・学生間の対話を通して自己発信能力を向上させます。また、早くから「人間とは何か」という問いに立脚した卒業研究に向けての問題意識を高めます。こうして身につけた幅広い教養と専門的能力に基づき、4年次で卒業論文を作成させます。

●実施に関する方針

学生の志望を尊重し、主専攻・コースは主体的に選択させます。教員が学生の学修状況を詳しく把握し、学修の進展に応じて適切な課題を与えることが可能な少人数教育を重視しています。また、多くの教室では映像や音声メディアも駆使した授業を受けられる設備が整っていると同時に、PCサテライトを利用して学修する環境も整えています。

●特色

一定の範囲内で、他コースや他主専攻、他学類の授業も履修し、幅広い視野を身につけられるような教育課程を編成しています。また、在学中に最低二つの外国語を重点的に学び、幅広いコミュニケーション能力を身に付けることができますようにしています。さらに、留学先で履修した授業の単位の認定が可能です。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

旺盛な知的好奇心を持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に対する明確な問題意識とそれに対応した能力を有する者。

●入学までに学んでおいてほしいこと

人文系の学問の基礎となる言語や社会に関する学科について十分な能力を習得し、希望する専攻分野に関連する他の学科についても基礎的な知識を有していることが望ましい。

（入学選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

入学後の学習に必要な基礎学力と思考力を十分に持ち、人文系の学問に取り組むことのできる人材を選抜します。

●個別学力検査等（後期日程）

論理的な思考力と表現力を持つと同時に、旺盛な知識欲と探求心を有し、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。

●推薦入試

高等学校における学習の基礎をしっかりと身につけた志願者の中から、個性豊かな課題意識と向上心を持ち、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。

●AC入試

人文系の学問に関わる専門的知識を主体的に吸収し、自己の判断力を磨いていく能力と創造的な問題解決能力を有する人材を選抜します。

●国際バカロレア特別入試

人文系の学問に強い関心を抱くと同時に、旺盛な知識欲と探究心を持ち、よりグローバルな観点から新たな問題提起をなし得る発展性のある人材を選抜します。

●私費外国人留学生入試

人文系の学問に関する問題意識と論理的な思考力を持ち、入学後の学業遂行に必要な知識と日本語の運用能力を備えている者を選抜します。

学部等名 人文・文化学群 比較文化学類

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/>）

（概要）

人類が築いてきた様々な文化を、「学際性」と「現代性」という問題意識のもとに比較・検討し、それを通じてひとつの学問分野に閉ざされることのない、開かれた知と批判的思考力を持った人材を育成します。また、国際的なコミュニケーション能力によって、グローバル化する社会に求められる問題解決能力と交渉力を備えた人材を育成します。

卒業の認定に関する方針 (公表方法: <http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>)

(概要)

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（比較文化）の学位を授与します。

- ひとつの学問領域に留まることのない、複眼的な知力と逞しい問題解決能力を備えている。
- 文献資料のみならず多様なメディアやフィールドを広く調査し、批判的に情報を解釈する能力を備えている。
- 独創的な着眼点、徹底した資料収集、堅実で粘り強い文献読解、卓抜な構成力、論理的一貫性などを有した、高度な論文執筆能力を備えている。
- 自国の文化伝統を踏まえつつ、グローバル化する社会の文化的多様性を理解する姿勢と教養を備えている。
- グローバル化する社会に貢献できる国際的なコミュニケーション能力を備えている。
- 多様な文化的環境に主体的に働きかけ、チームワークのもとで活動を遂行する能力を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: <http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>)

学士（比較文化）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

複数の学問領域を横断的に履修できる学際的で柔軟性に富む編成に留意し、学生ひとりひとりの問題意識とキャリア展望に対応する教育課程の構築を心がけます。また、国際的なコミュニケーション能力や異文化理解力を身につけるために、授業を含めた様々な機会を数多く提供するように努めます。

●順次性に関する方針

1年次は入門的・概論的な科目を中心に、共通科目の外国語を必修としています。各領域では文献研究やフィールドワークなどの前提となる学問の基礎的方法を身につける6領域に関する比較文化研究、概括的な知識を学ぶ概論科目を提供し、複数の学問の基礎知識を広く身につけることを目指します。

2年次は興味のあるいくつかの領域の専門導入基礎演習および専門科目を履修するとともに、今日のグローバル社会に求められる国際コミュニケーション能力を確実に身につけるために、中級の専門外国語科目を学びます。また2年次後半では、より専門的に深く学ぶために、どの領域・コースに属するかについて考えます。

3年次は領域・コースの所属を確定し、そこで提供されている専門科目や卒業論文基礎演習を本格的に履修し、教員との親密な交流の中で卒業論文に向けて自分自身の研究課題を深めていきます。引き続き上級の専門外国語を履修します。

4年次は卒業論文の制作を軸に、一つのテーマを巡って様々な文献の精読、フィールドワーク、ディスカッションを行います。教員との議論を通じて論理性を鍛えていきます。

●実施に関する方針

「地域文化研究」、「超域文化研究」という2つの「領野」の下に、複数の地域や学問分野を包含した6領域を設定し、学際的な文化研究の履修が可能となるように配慮するとともに、単なる知識の修得を超えた知力・コミュニケーション能力の育成と、少人数の演習形式の授業を重視します。外国語では、英語はディベートや論文指導も含む多様な内容の授業を展開し、英語以外にドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語に加え、韓国語、さらにはギリシャ語、ラテン語、インド古典語など、多数の外国語の授業を提供し、少人数での実践的な語学教育を行います。

●特色

「国際性の日常化」を重視し、大学院留学生がTAとして積極的に授業に参画します。さらに大学院留学生TAによる正規カリキュラムにはない言語を課外活動として修得することが可能です。これらを含む留学生との交流の場が豊富に設けられます。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法: <https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>)

<p>(概要)</p> <p>●求める人材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの問題意識を出発点として、さまざまな学問領域に関心を寄せながら、文化・社会について広く柔軟に学ぶ意欲を持つ人。</li> <li>・異文化理解に裏付けられたグローバル・コミュニケーション能力を身につけようとする人。</li> <li>・海外経験・社会経験などを通じて得た問題意識を学問的に深めたい人。</li> </ul> <p>●入学までに学んでおいてほしいこと</p> <p>日本語及び外国語に関する優れた能力、特に文化・社会に対する旺盛な好奇心と高い教養を身につけておくことが望ましい。また、希望する学問領域に関連する社会科科目の知識を備えていることが望ましい。</p> <p>(入学者選抜方針)</p> <p>●個別学力検査等 (前期日程)</p> <p>文化・社会に強い関心と知識を持ち、学業遂行の上で必要な能力と知識を有する者を選抜します。特に勉学に対する意欲と論理的思考力、表現力を重視します。</p> <p>●個別学力検査等 (後期日程)</p> <p>文化・社会に強い関心と知識を持ち、学業遂行の上で必要な能力と知識を有する者を選抜します。特にコミュニケーション能力と柔軟な発想力を重視します。</p> <p>●推薦入試</p> <p>文化・社会に強い関心と知識を持ち、それを自分自身の言葉で表現する能力を重視して選抜します。</p> <p>●AC入試</p> <p>文化・社会に強い関心と知識を持ち、特定の専門分野について具体的で個性的なテーマを設定し、そのアプローチと内容に関して独自の研究成果を挙げている者を選抜します。</p> <p>●国際バカロレア特別入試</p> <p>自立して世界的に活躍できる人材を育成するため、本学類の教育を受けるのに必要な基礎学力を有し、探究心旺盛で積極性・主体性に富む人材を受け入れます。</p> <p>●私費外国人留学生入試</p> <p>文化・社会に強い関心と知識を持ち、日本の大学における学業遂行の上で必要な能力と知識を有する者を選抜します。</p>
<p>学部等名 人文・文化学群 日本語・日本文化学類</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>日本における言語・文化事象を総合的に捉え、グローバルな視点で理解する力を養います。これにより、多文化共生社会を見据えたうえで、異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる文化の創造者たる人材を養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標および本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士 (文学) の学位を授与します。</p> <p>●グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識 (言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など) と探究能力・研究手法とを修得している。</p> <p>●異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる言語運用能力、情報処理能力および異文化間コミュニケーション能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>)</p>

(概要)

●総合的な方針

すべての学生が言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関する知識を幅広く学ぶように一専攻制を採用しています。また、知識教育だけでなく、実習やインターンシップを通して学ぶ実践性を重視した授業科目を提供しています。

さらに、海外で学ぶ国際研修、留学生と共同で調査・研究を行う合同授業、留学生をサポートするためのチューター制度を通して、現地・現場はもちろん、日常の学習の場を通して多文化共生のあり方を理解できるよう教育課程を編成しています。

●順次性に関する方針

1 年次…共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。

2 年次…専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。さらに、実習、留学生との合同授業、国際研修などの実践的な科目を通して、異言語・異文化との接触の中で、自国語・自文化に対する問題意識を醸成します。同時に、専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力（特に英語力）を身につけます。

3 年次…演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。さらに、実習などの実践的な科目において、問題意識を深め、解決のための応用力・実践力を向上させます。

4 年次…卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。

●実施に関する方針

学年別説明会を開催し、カリキュラムに関して定期的な全体指導を行います。

3 年次に総合演習を設けて、専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となるような指導を行います。複数教員によるグループ指導によって各教員の専門性を生かしつつ総合的な研究指導を行います。

海外で実施する国際研修やインターンシップ、国内で行うフィールド実習、さらに情報リテラシーなどの授業を通して、実践的な場面でのコミュニケーション能力や課題解決能力の獲得をめざします。

●特色

複数の担当教員による総合演習を設けることで、ひとつの事象や課題を多角的・立体的に考察する力を涵養します。また、国際・協働の科目において、現実に生起する課題に対処する多様な具体的方策を実践的に学ぶことができます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

(概要)

●求める人材

旺盛な知的好奇心を持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に対する明確な問題意識とそれに対応した能力を有する者。

●入学までに学んでおいてほしいこと

日本語および外国語に関して、十分な読解力と自分の考えを明確に伝える表現力を高め、おくことが望ましい。

(入学者選抜方針)

●個別学力検査等（前期日程）

日本語や日本文化、国際交流や異文化理解などに関する学問に取り組むための基礎学力と、それに基づく思考力・応用力を有する人材を選抜します。

●推薦入試

高等学校における平素の学習や活動の成果などを基に、志願者の能力・適性を総合的に評価します。明確な問題意識と勉学への意欲とを持ち、日本語や日本文化、国際交流や異文化理解などの専門領域に対する適応性を示す人材を選抜します。

●AC入試

日本語や日本文化、国際交流や異文化理解について独自の視点を持ち、自ら問題を見出

し、解決する能力を重視して選抜します。

●国際バカロレア特別入試

国際バカロレア資格を取得した者を対象として、日本語や日本文化、国際交流や異文化理解に対する旺盛な知的好奇心と明確な問題意識を持ち、国際的な視野に立って自ら問題を見出し、解決する能力を有する人材を選抜します。語学力を含めたコミュニケーション能力を重視し評価します。

●私費外国人留学生入試

日本語や日本文化、国際交流や異文化理解に対する明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適應できる理解力・思考力・語学力（日本語・英語）を有する者を選抜します。

●私費外国人留学生 Japan-Expert（学士）プログラム特別入試

日本語、日本文化に幅広い興味を有し、将来、国内外において日本での就学・就労や日系企業での就労を希望する者に日本語を教える日本語教師となることを希望する人材を求める。

学部等名 社会・国際学群

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

（概要）

社会科学分野を基本としつつ環境学や情報学等の分野も加えた総合的な知の体系と、専門性に裏付けられた方法論を身に付け、グローバル化する社会で生起する複雑な諸問題を的確に理解し、分析する能力を備え、社会の要請に柔軟かつ独創的に対応できる人材を育成します

学部等名 社会・国際学群 社会学類

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/>）

（概要）

社会学・法学・政治学・経済学の専門知識を集中的に深める教育を提供するだけでなく、各分野の基礎知識を総合的に修得するための横断的な教育も併せて実施することで、社会科学全般のゼネラルな視点に裏打ちされた高い専門性を発揮しうるグローバル（グローバル＋ローカル）志向の人材養成を目指します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

（概要）

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会学）の学位を授与します。

●社会学・社会科学を広く学びつつ、多様な社会学各論の視座や方法を関連づけて理解し、複雑化する現代社会を多角的な視点でとらえることができること。

●既存の社会制度や慣習にみられる「常識」を改めて対象化して問題化し、これを分析する能力や社会のあるべき姿を総合的に構想する力を習得していること。

●社会的な事象を社会学的に記述し、問題提起していくコミュニケーション能力を身につけていること。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

（概要）

学士（社会学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

社会学・法学・政治学・経済学が同じ学類の中に存在するという最大の特長を生かし、社会科学を総合的に学ぶことによって、広い視野と総合性を習得できるようにします。そのうえで、社会学に関する次のような力を育てることを方針とします。

社会学的な関心や視座に関する知識の習得と、調査・分析する力や理論的な記述・表現する力など社会学的な実践力の習得をめざし、順序性に配慮して編成します。

学生の主体的な取り組みを促すために、各自の興味関心に即して問題意識を育み、それ

に基づく学習ができるよう、自由な科目選択の可能性に配慮します。

●順次性に関する方針

1年次では、社会学的知識の基礎に関する科目（専門基礎科目）を配置します。また社会科学に関する基礎的知識と広い視野を養うことができる法学・政治学・経済学の専門基礎科目を開設しています。

2～3年次では、専門基礎科目群に並行して、広範囲にわたる社会学的諸テーマのそれぞれに関する専門科目群、社会学の外書講読や研究法に関する科目群を配置します。少人数による演習や実習は、それらを自ら実践することを目指します。いずれも学生の関心にあわせて選択できるように配慮します。

4年次には、引き続き社会学的知識に関する専門科目群、社会的な実践に関わる演習や実習、卒業論文演習などの科目を配置し、卒業論文においてそれらを融合した集大成の作品にすることを目指します。

●実施に関する方針

社会制度や慣習をめぐる「常識」を相対化できる資料、教材の開発をします。

個人の関心を尊重した課題の設定や資料の収集、分析の実践を行います。

調査実習の実施や、講義におけるゲスト・スピーカーの活用など地域や現場との連携を図るとともに、理論と社会事象の統合を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

社会科学を総合的に学習するために必要な基礎学力と、グローバル化する社会の様々な事象への関心や洞察力・分析力を併せ持つ人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

社会科学を学ぶための読解力や表現力の基礎となる英語と日本語。また、地理や世界史・日本史および数学に関する基本的な知識も備えていることが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

入学後の学習に必要となる基礎学力および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。

●推薦入試

高等学校における学習をしっかりと身につけたうえで、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関連する分野について、明確な問題意識と優れた能力を有する者を評価します。

●国際バカロレア特別入試

社会科学を学ぶために必要な高い基礎学力に加え、社会的な事象に対する深い関心と問題意識、明確な目標に向けて主体的に学ぶ力と積極性、語学力を含めた高いコミュニケーション能力などを総合的に評価します。

●編入学試験

社会科学系の学問に対する高い問題意識と意欲を持ち、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関する初歩的な素養および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。

（私費外国人留学生特別コース入試）

【社会国際学教育プログラム】

(1) 求める人材

グローバル化と情報化が進むなかで、政治的・経済的・文化的・国際的な諸問題に対して関心を示し、事象を学問的に分析できる応用力を備えた人材を求めます。

(2) 入学者選抜方針

高い英語力・専門分野の知識を習得するための基礎学力とともに、現代社会の諸問題に対する独自の視点と分析力を、提出書類及び個別面接により総合的に評価します。

学部等名 社会・国際学群 国際総合学類
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a> )
<p>(概要)</p> <p>グローバル化とともに複雑化する国際的な諸問題に対して、問題の本質を発見する洞察力と情報分析能力を身に付け、先見性と独自性に富む解決策を他者に伝えるコミュニケーション能力を備えた、文理融合型の実践的な人材を養成します。</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際関係学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際政治学、国際法、経済学、言語学、文化人類学等の各領域の専門的知識と、ITスキルに裏打ちされた多角的な方法論を踏まえた、文理融合型の学際的見識を修得している。</li> <li>●最新の世界事情を歴史的・文化的背景を踏まえて理解し、基本的な解決策を提示する国際ガバナンスのプロセスを理解している。</li> <li>●国際学ゼミナールの議論と卒業論文の研究を通して、高度の論理的思考力と多様な価値観を前提とした表現力を習得している。</li> <li>●「ヒアリング力」、「交渉力」、「提案力」、「前向きな姿勢」、「向上心」といった基本的なヒューマン・スキルと、コンピューターによる分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを身に付けている。</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
<p>(概要)</p> <p>学士（国際関係学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針 <p>現在の国際問題は経済や文化と深く関係しており、その解明は政治学的なアプローチだけでは不十分です。国際関係学専攻では、政治学、国際法、経済学、文化人類学、言語学などの分野を横断する学際教育により、ガバナンス志向的な問題解決の能力を有するグローバル人材を養うことを目標としています。国際開発学専攻と共通する領域もありますが、より社会科学的側面から国際社会で発生する様々な問題を捉え分析してゆく学問体系を持ちます。教育課程は基本的に、国際開発学専攻との共通点の多い専門基礎科目から、より専門性の高い国際関係学分野に固有の科目及びゼミナールへと、知見を掘り下げていくという観点から編成されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●順次性に関する方針 <p>1年次…基本的な学問分野の学習必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際関係の基礎とグローバルな視野、広範な教養を身につけます。基礎的な社会・人文科学、及び環境学、情報学といった複数のディシプリンを俯瞰することで、自分が得意とし、将来的に深く学んでいきたい主専攻と専門分野を決めていくステップとなります。同時に、英語を中心とした語学力とコミュニケーション能力を強化します。</p> <p>2年次…学際的な分析法の習得 <p>主に選択の基礎科目を学び、国際的な比較や歴史的な背景を考察すると同時に、環境学・情報学との融合領域に対する知見や分析方法の習得を通じて、学際的な素養と国際問題への洞察力を涵養します。さらに、語学はスキル・手段であるという認識を確立した上で、広い視野、価値観の相対性を前提とした、真のコミュニケーション能力を強化します。</p> <p>3年次…課題解決的、及び理論的な研究 <p>国際関係学専攻科目の学習を通じて、隣接分野の動向も踏まえた、具体的な解決策の構築に寄与する理論的知見を習得します。急速に変動し複雑化する国際状況に対応して「何が問題であるか」を突きとめる問題解決へと立ち向かう鋭い問題意識とバランスのとれた国際感覚を身につけます。</p> </p></p></li> </ul> </li> </ul>

4 年次…国際的に通用する説得的な政策の研究

少人数の国際学ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、4 年間の研究成果を構築します。独創的な問題設定を行い、論理立てて分析・実証し、自らのガバナンス力を高めることで、国際的に活躍できるグローバル人材を目指します。

●実施に関する方針

学習モチベーション形成のために、諸外国の研究者や政治家を招いて国際問題に関するシンポジウムや討論会を開催します。これらの機会を通じ、学生が日常的に国際化を意識できる学習環境を創出できるように努めています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

既成観念にとらわれず、多様な価値観の存在を想像しながら、ものごとを観察し、何が問題かを見分け、何をどうすればいいのか、筋道をたてて考え、それを周りに説明でき、理解者を増やしていく意欲・チャレンジ精神をもつ人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

優れた外国語能力、国際人として必要な地理歴史の基本的知識、基礎的な数学の知識を備えていること。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

高い基礎学力と優れた語学能力に加えて、地理歴史または数学の能力を総合的に評価し選抜します。

●推薦入試

基礎学力とコミュニケーション能力に加えて、国際関係や国際開発への幅広い関心と強い学習意欲を有する人材を選抜します。

●国際バカロレア特別入試

国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、国際関係や国際開発の諸問題を主体的に学ぶための知識や思考力、問題意識、明確な目標をもって学ぶ意欲、語学力を含めたコミュニケーション能力を総合的に評価し選抜します。

（私費外国人留学生特別コース入試）

【社会国際学教育プログラム】

(1) 求める人材

グローバル化と情報化が進むなかで、政治的・経済的・文化的・国際的な諸問題に対して関心を示し、事象を学問的に分析できる応用力を備えた人材を求めます。

(2) 入学者選抜方針

高い英語力・専門分野の知識を習得するための基礎学力とともに、現代社会の諸問題に対する独自の視点と分析力を、提出書類及び個別面接により総合的に評価します。

学部等名 人間学群

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

（概要）

人間と人間がかかわる社会・自然に関する幅広い興味と関心を基盤にしつつ、人間の発達や支援に関して科学的に分析・理解する態度と専門的な知識や技能を身につけ、これらの態度・知識・技能を活用して、人が抱える様々な問題へ主体的かつ創造的に対処することで、人間社会に広く貢献することができる人材を養成します。

学部等名 人間学群 教育学類

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/>）

<p>(概要)</p> <p>人間形成、学校教育、教育計画・設計、地域・国際教育にかかわる教育学の専門的知識・技能を活用し、学校、自治体、民間機関、国際機関など様々な分野で貢献できる人材、研究能力を有する人材を養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（教育学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を備えている</li> <li>●教育に対する幅広い学識を修得し、体系的な見方・考え方ができる</li> <li>●教職などの専門職に採用される水準の教育専門家的資質・能力を備えている</li> <li>●教育学の理論と実践に関して、大学院に進学できる水準の基礎的研究能力を備えている</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>学士（教育学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針</li> </ul> <p>教育学を構成する様々な研究領域のつながりを考えて、教育学の総合性に対応した4つの系列（人間形成系列、教育計画・設計系列、学校教育開発系列、地域・国際教育系列）を設けています。学生はこれらすべての系列に関する科目を履修しますが、将来の目的に合わせて特に関心のある系列を1つ選び、その系列の授業については集中的な履修を行います。また、2年次になると、小学校教員免許状の取得を希望する学生は「初等教育学コース」に所属し、そうでない学生は「教育学コース」に所属することになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●順次性に関する方針</li> </ul> <p>1年次…「基礎科目（共通科目・関連科目）」と「人間学群共通科目」を履修し、教育学に加えて心理学と障害科学の基礎を学び、人間・社会・自然に関する幅広い興味と関心を育てながら、教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を培います。</p> <p>2年次…研究力を高めるために、「教育学研究法」を履修します。また各系列科目の概論的な講義を受講し専門性の幅を広げるとともに、「教育インターンシップ基礎論」「教育インターンシップ実践演習」を履修します。</p> <p>3年次…系列ごとに設けられた「演習」及び「探究」を履修して専門知識の体系性を完成させるとともに、「教育学実践演習」を履修し、「卒業研究」の準備段階とします。それによって、教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方を培います。</p> <p>4年次…原則として5月と10月に開催される2回の卒業研究指導会（構想発表会と中間発表会）で発表し、そこでの指導を踏まえて、4年間の学習の成果を「卒業論文」としてまとめます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実施に関する方針</li> </ul> <p>2つのコースと4つの系列を準備し、個人の専門的な研究関心を深めることと同時に、教育学という総合的な学問を様々な観点から学べるようにしています。さらに、小学校の教員免許状をはじめ、中学校（社会科）や高等学校（地理歴史と公民）の教員免許状、および社会教育主事の資格に必要な科目も用意されています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: <a href="https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404">https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404</a>)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●求める人材</li> </ul> <p>人間社会が形成してきた文化や教育・学習活動に対する幅広い関心と高い問題意識を抱き、学問的に深めたいという志を持ちながら、自主的に学び、考え、科学的、論理的、かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●入学までに学んでおいてほしいこと</li> </ul> <p>人間の発達や支援、教育について、様々な考え方や見方に触れることにより、人間、社</p>

<p>会、自然に関する興味と関心を培うようにして欲しい。</p> <p>(入学者選抜方針)</p> <p>●個別学力検査等 (前期日程)</p> <p>広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。また、集団面接において、応答性、論理性、協同性等を評価します。</p> <p>●個別学力検査等 (後期日程)</p> <p>広い基礎学力を評価します。また、集団面接において、応答性、論理性、協同性等を評価します。</p> <p>●推薦入試</p> <p>一定レベルの学力を有し、教育学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、教育学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。あるいは、教育学について明確な問題意識を持ち、その問題意識に関連した優れた活動実績を有するかどうかを評価します。</p> <p>●国際 バカロレア 特別入試</p> <p>国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、教育学類の学習について明確な目的意識を持ち、教育に関する領域で国際的視野に基づく活動を志しているかどうかを評価します。</p> <p>●私費外国人留学生入試</p> <p>教育的な事象に対する深い関心と問題意識を持ち、基礎学力の高さに加えて、入学後の授業に適応できる理解力・思考力日本語能力を有する者を総合的に評価します。</p>
<p>学部等名 人間学群 心理学類</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>現代社会が抱える多様性とその環境に生きる人間の在り方や生き方について関心を持ち、人間性の根本を深く考慮し、様々な問題を主体的かつ創造的に解決し、自己と他者とが共存するより豊かな社会を実現するために人間の心と行動を科学的・実証的に分析し理解する姿勢及び専門的な知識や技能を身に付け、国際的にも通用する知性・人間性・逞しさを備えた人材を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(心理学)の学位を授与します。</p> <p>●心理学に関する専門的知識と心理学の方法論を活用して適切にデータを収集し、科学的に分析することができる</p> <p>●研究成果を発表し、討論ができる</p> <p>●他者を理解し、協力して物事を成し遂げる態度と能力を備えている</p> <p>●英語による発表能力とコミュニケーション能力を備えている</p> <p>●公認心理師として求められる水準の知識を備えている</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>学士(心理学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <p>●総合的な方針</p> <p>授業科目を心理学に関する知識の習得、研究方法の習得、発表と討論、実習という4カテゴリに分類した上で、心理学の代表的な分野をすべて網羅した幅広い心理学教育を基礎から行い、卒業研究の完成へと導きます。</p> <p>●順次性に関する方針</p> <p>以下のステップを踏んで基礎的分野から応用・実践的分野まで幅広い心理学教育を行います。</p> <p>1 年次…心理学概論および心理学研究法により心理学の基本的知識を習得し、心理学統</p>

計法Ⅰ・Ⅱ・同実習により心理学の基礎的分析技法を習得します。

2年次…基幹となる専門科目群を幅広く履修し、心理学の専門的知識を習得します。心理学実験では基礎的研究技法を習得し、心理学研究実習Ⅰでは十分な先行研究の理解に基づいて実験・調査研究を行い、データ収集能力と科学的分析能力、そして討論ができる能力を実践的に習得します。心理学英語セミナーでは英語論文の講読を通して心理学研究の専門知識や方法論、心理学論文執筆の基本的なルールなどを習得します。

3年次…講義・演習科目を中心として心理学に関する高度な専門知識を習得します。また、2年次に続き、心理学研究実習Ⅱではデータ収集能力と科学的分析能力を高めます。

4年次…卒業研究遂行のための発表や卒業論文の提出、最終発表会の質疑応答を通し、論理的思考、洞察、創造性のもとに論文ならびにプレゼンテーションを構成し、応答力の高い討論を行える能力を育成します。

●実施に関する方針

履修規程に準拠し、心理学を幅広く学修することを保証します。学生自らが先行研究に関する文献研究と実験・調査研究を行う科目を設け、主体的な学修を促します。心理学研究実習Ⅰ・Ⅱおよび卒業研究により、教員や大学院生と共に最新の心理学研究を直に学ぶ機会を与えます。

●特色

海外への留学を積極的に勧め、グローバルな人材の育成に努めます。

講義とグループディスカッションに加え、「人間学群」の専門性と関連の深い職種・進路先からの外部講師を招聘し、学生自身のキャリアデザインについて考える機会を与えます。

座学に加えて、様々な実習を通して実践力・応用力を向上させ、知識の定着化・有用化の機会を与えます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

人間のこころと行動に高い関心と興味を持ち、さらには、人間を深く理解しようとする探究心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高等学校での学習内容を深め、特に英語書籍・論文を理解できる英語力を習得していること、自分の考えを明確に伝える日本語および英語の表現力を高めておくことが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

広い基礎学力と英語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科いずれかの学力を総合的に評価します。また、集団討論において、応答性、論理性、協同性等を評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

広い基礎学力を評価します。また、集団討論において、応答性、論理性、協同性等を評価します。

●推薦入試

一定レベルの学力を有し、人間のこころと行動について明確な目的意識を持つ人材で、心理学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。または、人間のこころと行動について、旺盛な知的好奇心を持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会活動等において優れた実績を有するかどうかを評価します。

●国際バカロレア特別入試

国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、心理学類の学習に関して明確な目的意識を持ち、心理学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材を選抜します。

●私費外国人留学生入試

心理学類の学習に高い関心を有し、入学後の授業に適應できる理解力・思考力・日本語運用能力を有する人材を選抜します。

学部等名 人間学群 障害科学類
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a> )
<p>(概要)</p> <p>乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身に付け、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（障害科学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●障害科学の全体的な理念・概念を理解し、障害科学に関連した障害教育、障害心理・生理、障害福祉についての基礎的知識と技能を修得している</li> <li>●障害科学に関連した問題を志向し、その問題を解決する能力と科学的思考力を持ち、専門研究を展開できる基礎的能力を修得している</li> <li>●障害科学に関連したリーダーシップにつながる基礎的能力を備えている</li> <li>●障害科学に関連した英語等外国語力を修得している</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
<p>(概要)</p> <p>学士（障害科学）に関して、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針 <p>学類の基本的な履修形態として、障害や障害者に関する幅広い知識を身に付ける「障害科学履修モデル」を設定しています。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、言語障害学、運動障害学、健康・高齢障害学、知的・発達・行動・情緒障害学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎を修得します。</p> </li> <li>●順次性に関する方針 <p>1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える  「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により障害科学の基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」において実践現場を見学・参観し、障害科学探求のモチベーションを高めます。また、「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解します。</p> <p>1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える  障害別の「生理病理特講」、「障害と心理」、「障害児教育総論」、「社会福祉原論」等で各専門の基礎を学び、「心理学統計法Ⅱ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門・自由研究」、「人間フィールドワーク」等を通じて、自らの修学の方向性と卒業後の進路を考えます。</p> <p>3～4年次…障害科学の研究・実践技術の修得  障害科学に関する専門知識や技能を修得し、大学院進学に備えます。「障害科学専門演習」等の様々な実習や演習を通じて研究手法を修得します。「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、修得した研究手法を用いて実際に研究を計画・実行し、卒業研究をまとめます。</p> </li> <li>●実施に関する方針 <p>障害科学履修モデルに基づいて、履修規定で卒業に必要とされる単位を修得することにより、障害科学を幅広く学修します。演習・実習系の授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員・福祉施設などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による「日本の障害科学」を開講しています。</p> </li> </ul>

<p>●特色</p> <p>「障害学生支援技術」等で障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援室の活動に参加しています。</p> <p>「国際教育協力実習」では留学体験が可能です。</p> <p>海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404">https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>●求める人材</p> <p>人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材。</p> <p>●入学までに学んでおいてほしいこと</p> <p>障害科学類では障害に関する様々な学問領域を学ぶ基礎として、英語のほか、文科系、理科系にわたる基礎教科について十分な知識と理解を得ていることが望ましい。</p> <p>（入学者選抜方針）</p> <p>●個別学力検査等（前期日程）</p> <p>広い基礎学力と英語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科いずれかの学力を総合的に評価します。また、集団討論において、応答性、論理性、協同性等を評価します。</p> <p>●個別学力検査等（後期日程）</p> <p>広い基礎学力を評価します。また、集団討論において、応答性、論理性、協同性等を評価します。</p> <p>●推薦入試</p> <p>一定のレベル（高等学校の上位10%以内）の学力を有する者、または筑波大学の個別学力試験等に合格できる程度以上の学力を有する者で、障害科学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、障害科学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。または、障害科学についての問題意識を明確に持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会的活動等において優れた実績を有するかどうかを評価します。そのほか、外国語能力や問題解決能力等において国際的素養を有し、将来、障害科学の分野において国際的に活躍する資質を十分に有しているかどうかを評価します。</p> <p>●推薦入試（障害者 特別入試）</p> <p>重度の身体障害を有し、各科目において優秀な成績を修めた者で、障害科学に対する高い学習意欲を有するかどうか、障害者としての自立に高い意欲を持ち自立的な態度を有しているかどうかを評価します。</p> <p>●国際 バカロレア 特別入試</p> <p>障害科学類の学習に関して明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、障害科学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材を選抜します。</p> <p>●私費外国人留学生入試</p> <p>人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適應できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。</p>

<p>学部等名 生命環境学群</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>人間を含む多様な生物の生命現象、それを支える地球環境、さらには生物資源の保全や持続的活用の方法を総合的に理解し、豊かな人間性と問題発見・解決能力を有する、国際的視野に立って活躍できる未来創造型の人材を育成します。</p>
<p>学部等名 生命環境学群 生物学類</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>）</p>

<p>(概要)</p> <p>生物界のシステム、生体機能のメカニズム、生命現象の本質、生物学の研究方法及び先端研究の意義を理解し、生物と関わる幅広い学問分野でグローバルに活躍する研究者、教育者、技術者、企業人など、先端科学と社会の接点となる人材を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(理学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然科学の理解…自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身に付けている。</li> <li>●生物学の理解…専門とする分野にとどまらず、生物学一般に関する幅広い理解を深めるとともに、多様な生物学の研究手法を身に付けている。</li> <li>●生物現象の分析能力…生物現象について実験・観察で得られたデータや膨大な生物情報を適切な手法により分析し、適確に記述し批判的に評価する能力を身に付けている。</li> <li>●国際的コミュニケーション能力…国際的に活躍するために必須となる英語力、及び自分の考えや意見を正しく分かりやすく表現するコミュニケーション能力を身に付けている。</li> <li>●論理的表現能力…卒業研究の研究課題に関連する英語学術論文を読み、その内容を研究レポートにまとめる等を通じて、学術論文の読み方と論理的表現能力を身に付けている。</li> <li>●問題発見・解決型能力と自己表現能力…最終年次に卒業研究を行うことにより、主体的に問題を発見し、解決する能力を身に付けている。また、研究成果についてプレゼンテーションを行うとともに、要旨の Web 公開を通じて、科学的表現能力を身に付けている。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>学士(理学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針 <p>基礎生物学分野からゲノム生物学などの先端分野、さらには農学や医学との境界領域にわたる科目群を 5 つのコースに対応して開設し、幅広い生物学分野を修得させます。多くの実験・実習・演習科目を配置し、実践的・創造的能力を養います。</p> </li> <li>●順次性に関する方針 <p>1 年次には自然科学全般に関する基礎的知識を習得させるとともに、生物学全般にわたる基礎的知識と技術を概論科目と基礎生物学実験により身に付けさせます。</p> <p>2・3 年次にはコースを選択し、主となる専門分野に加え、多様な生物学の諸分野を 2 年間かけて学習させることにより、幅広い生物学の理解を基礎として卒業研究に取り組むことができる専門知識と技術を身に付けさせます。</p> <p>4 年時には卒業研究を行い、主体的に問題を発見し、解決する能力や、科学的表現能力を身に付けさせます。</p> </li> <li>●実施に関する方針 <p>1 年次の基礎生物学実験のほか、2・3 年次の専門実験実習科目を 4 科目以上必修とし、4 年次に卒業研究を各研究室で集中して行うことで、研究能力を養います。</p> <p>2・3 年次の専門科目を中心に、およそ 30 科目の授業を英語で実施し、国際的に活躍できる能力を育成します。</p> </li> <li>●特色 <p>国際的コミュニケーション能力強化のため、2・3 年次のサイエンスコミュニケーションの授業に加え、3・4 年次に少人数での専門外国語の授業を必修としています。毎年数名の学類生を選抜し、1 年間マンチェスター大学やパリ第 13 大学等に留学させ、国際的コミュニケーション能力の特に秀でた人材を育成します</p> </li> </ul>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: <a href="https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404">https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404</a>)</p>

(概要)

●求める人材

生き物や生物学が好きで、自然科学と語学の基礎学力をもち、広範で多様な生命現象に対して強い好奇心と探究心をもつ、創造的能力が豊かな人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高等学校の生物の内容を十分に理解していること。また、授業は英語で行われることもあるため、十分な英語の読み書き会話の能力を有していること。さらに、ホームページや電子メール等からの情報の取得、パソコンを用いた文章・表作成などが必要となるため、それらの操作に習熟していること。

(入学者選抜方針)

●個別学力検査等 (前期日程)

文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、自然科学系科目の高度な理解力、高度な思考力、そしてその応用力を総合的に評価します。

●個別学力検査等 (後期日程)

文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と高い学習意欲、高度な思考力、そして理解力を総合的に評価します。

●推薦入試

高等学校における学習及び課外活動の成果やそれらを通じて培われた生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と理解度、そしてそれらを学ぶ意欲、さらには人間性も含めて総合的に評価します。

●AC入試

生物界や生き物の仕組みに対する強い興味を持ち、自ら設定したテーマに関してユニークな研究をし、その結果を分析して、独善的な考えに陥ることなく、科学的及び論理的にレポートにまとめ、それを具体的に発表する能力を評価します。

●国際科学 オリンピック 特別入試

国際生物学オリンピックに出場した者、またはその代表者選考会等において一定の成績を収めた者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を評価します。

●国際 バカロレア 特別入試

国際バカロレア資格を取得した者を対象として、生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と理解度、それらを主体的に学ぶための知識や思考力、明確な目標を持って学ぶ意欲、さらには語学力を含めたコミュニケーション能力を重視して、総合的に評価します。

●帰国生徒 特別入試 (10月入学)

海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から生命現象をとらえ、生物界や生き物の仕組みに対する広い興味をベースに優れた思考力や理解力を発揮できる能力と生物学類の授業を理解するために必要な基礎学力等を総合的に評価します。

●私費外国人留学生入試

生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と学習意欲、生物学類の授業を理解するために必要な基礎学力および日本語能力等を総合的に評価します。

●編入学試験

生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と高い学習意欲、高い語学力、専門的な生物学教育を受容できる基礎的な学力、高度な思考力と理解力を総合的に評価します。

(私費外国人留学生 特別コース入試)

【生命環境学際プログラム】

(1) 求める人材

多様な生物の生命現象や生態・地球環境・生物資源の持続的活用等に関わる諸問題に対して学問的な関心を示し、多様な観点から事象を分析できる応用力を備えた人材を求めます。

(2) 入学者選抜方針

高い英語力・専門分野の知識を習得するための基礎学力とともに、生命環境科学分野の諸問題に対する独自の視点と分析力を、提出書類及び個別面接により総合的に評価します。

(私費外国人留学生 特別コース入試 編入学)

<p><b>【生命環境学際プログラム】（編入学）</b></p> <p>(1) 求める人材 多様な生物の生命現象や生態・地球環境・生物資源の持続的活用等に関わる諸問題に対して学問的な関心を示し、多様な観点から事象を分析できる応用力を備えた人材を求めます。</p> <p>(2) 入学者選抜方針 高い英語力・専門分野の知識を習得するための基礎学力とともに、生命環境科学分野の諸問題に対する独自の視点と分析力を、提出書類及び個別面接により総合的に評価します。</p>
<p>学部等名 生命環境学群 生物資源学類</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>）</p>
<p>(概要) 生物資源学類は、人類の生存と安全で豊かな生活の基盤である生物資源に関する総合的学習を通じ、地域的かつ地球的視野で、食料の安定供給ならびに環境と調和した生物資源の持続的な開発・保全利用に貢献できる人材を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>(概要) 筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（生物資源学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然・人間・文化の本質を理解できる幅広い知識を修得している</li> <li>●多様な生物資源利用に関する体系的な専門的知識とそれを社会で活用できる能力、あるいは大学院でさらに高度な専門的探求ができる能力を修得している。</li> <li>●生物資源の開発・利用分野における海外協力に必要な異文化理解能力とコミュニケーション能力を修得している。</li> <li>●情報通信技術（ICT）を駆使して生物資源利用に関する情報や知識を分析し、それらを内外に受発信できる。</li> <li>●農林業の発展や食料・環境問題に対する貢献意欲を持ち、卒業後も自己成長を続ける力を備えている。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>(概要) 学士（生物資源学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針 生物資源科学専攻の中に農林生物学、応用生命化学、環境工学、社会経済学の4つのコースを置き、教育課程の前半では専門分野の区分のないクラスで、幅広い教養的科目を修得するとともに、生物資源科学の基礎となる共通の専門科目を学びます。後半では専門コースに所属してそれぞれのコースの専門的な知識と分野横断的な知識を学び、それらの知識をまとめて卒業研究を行って専門性を深めます。</li> <li>●順次性に関する方針 1年次では、基礎科目及び専門基礎科目を履修することによって、幅広い能力を持つ専門家としての基礎を築きます。とくに、学類の必修科目を学んで生物資源科学に対する理解を深めるとともに、課題解決のための問題意識を醸成します。 2年次では、専門科目のうち基礎的科目である各コースの専門科目Ⅰを履修することによって、専門を深めるための手法を身につけます。3年次に選択するコースの科目を中心としますが、横断領域科目の専門科目Ⅰによって学際的視野を広げます。 3年次では、4つの中から1つのコースを選び、選んだコースの専門科目Ⅱを履修することによって専門性を深めます。所属するコースの科目を中心としますが、横断領域科目の専門科目Ⅱによって関連分野の知識を広げます。 4年次では、引き続き専門科目Ⅱを履修すると同時に必修科目の卒業研究を実施し、一</li> </ul>

つの研究課題に対して、これまでに修得した専門的知識や手法を総合的に適用することにより、生物資源科学をより深く理解します。

●実施に関する方針

1年次に「生物資源の開発・生産と持続利用」、「生物資源としての遺伝子とゲノム」、「生物資源と環境」、「生物資源学にみる食品科学・技術の最前線」、「生物資源科学実習」、「生物資源科学演習」により生物資源科学の基礎を学んだうえで専門科目を履修します。

4つのコースでは、専門科目を体系的に履修して専門性を深めるとともに、実験・実習・演習を履修することにより、問題発見・解決能力を養うことができます。

「食料」、「環境」、「国際」をキーワードとした横断領域科目を履修することにより、学際的視野を深めることができます。

●特色

海外協定校での現地体験、国際協力機構筑波国際センター等で研修する「国際インターンシップ科目」、地域の企業や団体に活動する「食と緑のインターンシップ科目」により、国際性や社会貢献意欲を高めることができます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

生物資源、農業、環境保全に関心が強く、広範な学問を学ぶことのできる柔軟な思考力を持ち、問題解決に意欲のある人材を望んでいます。

●入学までに学んでおいてほしいこと

数学、生物、物理、化学についての基礎的な知識と理解、さらには応用する能力および語学力を備えていることが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

全般的な基礎学力と語学力に加え、生物資源に関連する学問を学ぶのに必要な理解力・思考力・応用力を総合的に評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

全般的な基礎学力と語学力に加え、生物資源に関する理解度や学習意欲、論理的に表現する能力を総合的に評価して選抜します。

●推薦入試（\*専門高校・総合学科特別入試枠を含みます）

高等学校において優秀な成績を修め、あるいは課外活動などで優れた実績を有し、生物資源に関する学習意欲や適性、論理的表現力ならびに基礎学力と語学力を総合的に評価して選抜します。

●AC入試

生物資源及び関連事項に対して強い興味と問題意識を持ち、自ら問題を発見し解決に取り組む能力と、それを他人に伝え論理的に説明する能力、そして基礎学力と語学力、学習意欲を持つ人材を選抜します。

●国際バカロレア特別入試

生物資源に関する学問分野について主体的に目標をもって学ぶための知識、思考力に加えて、語学力を含めたコミュニケーション能力などを重視して人材を選抜します。

●帰国生徒特別入試（10月入学）

海外生活で得た知識や経験に基づいた生物資源に関する高い関心と問題意識を持ち、関連する学問を学ぶのに必要な基礎学力と語学力、論理的な思考力や表現力を有する人材を選抜します。

●私費外国人留学生入試

生物資源に関する高い関心と問題意識を持ち、関連する学問を学ぶのに必要な基礎学力と日本語能力、論理的な思考力や表現力を有する人材を選抜します。

●編入学試験

基礎科目・専門科目に関する学力や語学力に加え、生物資源に関する理解度や学習意欲、論理的に表現する能力を総合的に評価して、本学類で発展できる人材を選抜します。原則

として、3年次への編入学ですが、場合によっては2年次への編入学となることもあります。

●私費外国人留学生 Japan-Expert (学士) プログラム 特別入試

人類の生存と安全で豊かな生活の基盤である生物資源に興味を持ち、日本の農林業研究・技術に関心がある人材及び日本の農林業研究・技術を活用し、将来、国内外の農林業に関する研究機関や企業等でアグロノミストとして貢献する人材を求める。

(私費外国人留学生特別コース入試)

【生命環境学際プログラム】

(1) 求める人材

多様な生物の生命現象や生態・地球環境・生物資源の持続的活用等に関わる諸問題に対して学問的な関心を示し、多様な観点から事象を分析できる応用力を備えた人材を求めます。

(2) 入学者選抜方針

高い英語力・専門分野の知識を習得するための基礎学力とともに、生命環境科学分野の諸問題に対する独自の視点と分析力を、提出書類及び個別面接により総合的に評価します。

(私費外国人留学生 特別コース入試 編入学)

【生命環境学際プログラム】 (編入学)

(1) 求める人材

多様な生物の生命現象や生態・地球環境・生物資源の持続的活用等に関わる諸問題に対して学問的な関心を示し、多様な観点から事象を分析できる応用力を備えた人材を求めます。

(2) 入学者選抜方針

高い英語力・専門分野の知識を習得するための基礎学力とともに、生命環境科学分野の諸問題に対する独自の視点と分析力を、提出書類及び個別面接により総合的に評価します。

学部等名 生命環境学群 地球学類

教育研究上の目的 (公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/>)

(概要)

地球の誕生から現在に至る地球の進化、大気圏・水圏・岩石圏で起こる様々な現象とそのプロセス、そして地球環境を舞台に展開される人間活動についての総合的な知識と思考力を有する、社会の諸分野で国際的な視野に立って活躍できる人材を養成します。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>)

(概要)

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(理学)の学位を授与します。

●自然科学一般に関する幅広い知識を習得し、科学的な思考能力を身につけている。

専門能力

- ・地球学に関する高度な専門知識を修得している。
- ・必要な実験機器・分析装置等を使用する技能を修得している。
- ・野外での観察・観測やデータ収集を行う能力を修得している。
- ・研究・調査を企画・実行し、その成果を論文等にまとめ発表する能力を修得している。

●国際性

英語によるコミュニケーションを行う能力を修得している。

●プレゼンテーション

自分の研究成果の内容を第三者に的確に伝達する能力を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>)

(概要)

学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

地球学類は、現在の地球環境を扱う「地球環境学主専攻」と、地球の変遷史を扱う「地球進化学主専攻」の二つの主専攻を設けています。各主専攻では、人文地理学、地誌学、大気科学、水文科学、地形学、環境動態解析学（以上、地球環境学主専攻）、地史・古生物学、地層学、地球変動科学、岩石学、鉱物学、地球資源科学（以上、地球進化学主専攻）の学問分野を学びます。

●順次性に関する方針

1年次では、自然科学全般に関する基礎的知識を習得するとともに、地球学に関する専門基礎科目や実験科目の履修により、2年次以降に必要な基礎的な能力を身につけます。

2年次では、地球学入門を意図した専門科目とともに、地球学に必要な数学、物理学、化学、英語などを学ぶことで、計算・資料整理・発表等にかかわるコンピュータや実験機器の利用能力を高めます。さらに、英文の読解能力や英語コミュニケーション能力を修得するための専門英語を受講します。

3年次からは、主専攻に分かれ、専門科目を中心に履修します。講義、セミナー、室内実験、野外実験で構成された専門科目を受講することで、専門知識を深めます。また、現地での観察・測定・資料収集を通して、フィールドの様々な課題を考察する野外実験を数多く開講しており、野外調査と室内作業を行う能力を修得します。また、主専攻の他に生命環境学際主専攻（留学生コース）を含めた副専攻を選択することができます。

4年次では卒業研究が中心となり、教員や大学院生と議論をしながら調査・実験を進めることで、研究の企画・遂行・総括能力や研究成果の内容を第三者に的確に伝達する能力を高めていきます。

●実施に関する方針

学生の主体的な学修を促すために、学類担当教員による教科書を準備するとともに、e-learning システムを活用しています。産業界や地域との連携およびキャリアパス教育の一環としてインターンシップ科目を設けています。また、学類独自に、また学群や関連学類と共同で、実験室やコンピュータなど学修を支援する環境の整備を行っています。さらに、国際化の推進のために、少人数制の専門語学や国際野外実験の開講、生命環境学際主専攻の英語講義の受講を推奨しています。

●特色

本学類の特徴である野外実験は、本学附属研究センター、附属研修施設などと連携協力して実施されており、大型水路や熱収支・水収支観測圃場などが研究教育目標を達成できるように整備されています。また、地学オリンピックやジオパーク設立に向けた活動に協力することで、地球学類生が地球学を通じた社会との接点を持つ機会を設けています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

(概要)

●求める人材

地球環境や地球進化に高い関心と探究心を持ち、問題解決に向けて自主的かつ積極的に取り組み、広い視野から事象を分析することができる人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

理科の諸科目と数学についての知識と理解力、日本語の文章表現力や英語の読解・作文能力を身につけていることが望ましい。また、地理や地学に強い関心を持ち、自ら学ぶ努力をしてほしい。

(入学者選抜方針)

●個別学力検査等（前期日程）

文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、自然科学系科目の高度な理解力、高度な思考力、そしてその応用力を総合評価して選抜します。

●個別学力検査等（後期日程）

文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、地球環境や地球進化に対する

広い興味と高い学習意欲を持ち、論理的に思考・表現する能力を持つ人材を選抜します。

●推薦入試

高等学校において高度な基礎学力を身に付けた志願者から、地球環境や地球進化を学ぶ意欲と目的意識が明確であり、論理的に思考・表現する能力のある人材を選抜します。

●AC入試

高等学校において高度な基礎学力を身に付けた志願者から、地球環境や地球進化に強い好奇心を持ち、自ら設定したテーマに対して、創造的かつ問題解決志向で取り組む能力を持ち、それを表現する能力のある人材を選抜します。

●国際科学 オリンピック 特別入試

国際地学オリンピック、国際地理オリンピックに出場した者、またはその代表選考会等において一定の成績を収めた者を対象とし、地球環境や地球進化を学ぶ意欲、論理的な思考力・表現力を評価します。

●国際 バカロレア 特別入試

文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力を持ち、地球環境や地球進化を学ぶ意欲と目的意識が明確で、学習に取り組む意欲のある人材を選抜します。

●帰国生徒 特別入試 (10月入学)

海外生活の経験を活かし、国際性と協調性を身に付け、グローバルな視点から地球環境や地球進化を探究する意欲と能力を持つ人材を選抜します。

●私費外国人留学生入試

地球学に対する高い関心、入学後に地球学を学ぶために必要な基礎学力と、学生生活に適応するための日本語能力、協調性を総合的に評価します。

●編入学試験

自然科学や社会科学に関係する高度な基礎学力を身に付けた志願者から、地球環境や地球進化を学ぶ意欲と目的意識が明確で、論理的な思考力・表現力を持つ人材を選抜します。

(私費外国人留学生 特別コース入試)

【生命環境学際プログラム】

(1) 求める人材

多様な生物の生命現象や生態・地球環境・生物資源の持続的活用等に関わる諸問題に対して学問的な関心を示し、多様な観点から事象を分析できる応用力を備えた人材を求めます。

(2) 入学者選抜方針

高い英語力・専門分野の知識を習得するための基礎学力とともに、生命環境科学分野の諸問題に対する独自の視点と分析力を、提出書類及び個別面接により総合的に評価します。

(私費外国人留学生 特別コース入試 編入学)

【生命環境学際プログラム】 (編入学)

(1) 求める人材

多様な生物の生命現象や生態・地球環境・生物資源の持続的活用等に関わる諸問題に対して学問的な関心を示し、多様な観点から事象を分析できる応用力を備えた人材を求めます。

(2) 入学者選抜方針

高い英語力・専門分野の知識を習得するための基礎学力とともに、生命環境科学分野の諸問題に対する独自の視点と分析力を、提出書類及び個別面接により総合的に評価します。

学部等名 理工学群

教育研究上の目的 (公表方法: <http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>)

(概要)

持続可能な社会に必要な幅広い教養、科学・技術の基礎から応用に至る専門性、柔軟な思考、知的創造及び問題発見・解決の能力を修得し、広い視野及び豊かな人間性を持ち、チームで仕事をするための協働能力を備え、国際社会に貢献できるグローバル人材を養成します。

学部等名 理工学群 数学類

<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>純粋数学から応用数学まで現代数学の基礎について幅広い知識を習得することにより、高度な論理性を身につけると同時に、問題を分析しその構造を読み取って解決するという数学的思考能力を身につけた、社会の様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成することを目的としています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「学士」に相応しい教養とヒューマンスキルを身につけている。</li> <li>●自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。</li> <li>●数学の基礎である「微分積分」と「線形代数」を自在に駆使できる。</li> <li>●数学的な論理展開の方法を理解し、数学的思考力・論理力と応用力を身につけている。</li> <li>●代数・幾何・解析・情報数学のいずれかの分野における専門知識を習得している。</li> <li>●専門分野に関する基礎的な英語能力および発表能力がある。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針</li> </ul> <p>数学は非常に体系化された国際的普遍性のある学問であり、先進国の主要大学においてはどこでもほぼ同様なカリキュラムとなります。これに沿って、基礎から専門、発展・応用へと順を追ってスムーズに進行出来るよう教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●順次性に関する方針</li> </ul> <p>1年次においては、自然科学全般に関する基礎的知識を習得するとともに、専門数学を学ぶための基礎として、全ての数学の土台である微分積分学と線形代数学を専門基礎科目として学びます。これらには講義のほかに演習の時間が付随し、実際に問題を解いてみます。また、共通科目、関連科目として語学など専門外の分野を広く履修します。</p> <p>2年次は基礎からの発展の時期です。微分積分と線形代数のより深い理論と、集合と位相、曲線・曲面など、専門分野への準備を行います。語学力と発表能力のアップのため、ゼミ形式の数学外書輪講Ⅰもあります。</p> <p>3年次は専門分野の基礎科目を学びます。代数・幾何・解析・情報の4つの分野における基幹的知識を得るための講義と演習を行います。ゼミ形式の数学外書輪講Ⅱもあり、また4年次の卒業研究へのスムーズな移行のための卒業予備研究があります。</p> <p>4年次では研究室に分かれて、各研究室5人程度の少人数ゼミ形式による卒業研究を行います。同時に、専門的な話題に関する講義も開講されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実施に関する方針</li> </ul> <p>主要科目には演習の時間をつけ、学生自ら例題や発展問題を解くことにより講義の理解を深めます。</p> <p>数学概論や数学外書輪講など、興味や関心を促す科目を用意します。</p> <p>幾つかの授業やゼミにてテキストに洋書を用い、表現力や語学力アップを図るとともに、国際性に配慮します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●特色</li> </ul> <p>教育職員免許状（数学・情報）がとりやすいカリキュラム設定がなされています。</p> <p>学習スタートアップ支援として、1年次の重要科目である微分積分と線形代数については補習（再履修）コースを夏期休業中に設けています。</p> <p>「数学手習い塾」を定期的に関講し、学生からの様々な疑問点に応えられるようにしています。</p>

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

数学が好きであり、分からないことがあれば、答えが出るまで根気強く考えられる人材。また論理的（数学的）思考能力を身につけたいと願っている人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高校レベルの数学の理解を深めておくこと。また数学のみならず自然科学全般に対する関心と理解を深める姿勢を養って欲しい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

一般的な基礎学力と、数学を学ぶ上で必要な論理的思考力・数学的思考力・応用力を総合的に評価します。

●推薦入試

高等学校で優秀な成績を修めており、数学を学ぶ目的意識が明確であること、数学という学問に取り組む意欲等を総合的に評価します。

●AC入試

数学に対する強い好奇心を持続的に有していることを重視するとともに、独自に課題を設定し解決する能力および基礎学力を総合的に評価します。

●国際科学オリンピック特別入試

国際数学オリンピックに出場した者、またはその代表者選考会等において一定の成績を収めた者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を評価します。

●国際バカロレア特別入試

自然科学に対する強い好奇心と国際的な広い視野を持っていること、数学に関連する基礎学力、および数学への学習意欲等を総合的に評価します。

●私費外国人留学生入試

協調性、数学に対する高い関心、そして入学後に数学を学ぶのに必要な基礎学力を総合的に評価します。

●編入学試験

専門的な数学教育を受容できる基礎的な学力を有していること、数学に対する強い関心と思考力を有していること等を総合的に評価します。

学部等名 理工学群 物理学類

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/>）

（概要）

多様に発展する現代物理学について、しっかりとした基礎と高度な専門的知識を備え、かつ、真理を探究する過程を通して育んだ柔軟な思考力と、物事の本質を洞察し問題を根本から解決する力を持つ人材を育て、それらの人材がそれぞれの能力を生かして社会の様々な分野で活躍することを目的とします。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

（概要）

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。

●自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている（数学、物理学、化学、生物学、地球科学）

●物理学に関する専門的な知識と能力を有する。具体的には…古典物理学（古典力学、電磁気学、統計力学など）、現代物理学（量子力学など）、現代物理学の発展的内容（素粒子物理学、宇宙物理学、原子核物理学、物性物理学、プラズマ物理学、生物物理科学）。物理的現象を、基本的な物理の原理と学んだ知識をもとにして、適切な解析手法により分析する能力。実験を独力で成し遂げるとともに、実験で得られたデータを説明、分析し、批判的に評価する能力。幅広い問題の基本的分析を行うとともに、物理学のカリキュラム

で得られた理論的及び実験的手法を用いることにより解決する能力。

- 自ら学び、課題を探究する能力を獲得している
- 理系学士としての基礎技能を習得している、具体的には…論文・レポートの作成の能力、自己表現・発表の能力、科学英語、計算機技術

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

（概要）

学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

- 総合的な方針

自然科学全般に関する基礎的知識を習得するとともに、物理学を基礎から最先端まで学ぶための、系統的なカリキュラムを編成しています。学生が能動的に学習に取り組めるように、講義と演習を一体化した授業科目や実験科目、自ら課題を探究する実習型の科目を設置しています。

- 順次性に関する方針

物理学は、先人が築き上げたものを元に、新たに見いだされたものを積み上げて行くという過程を繰り返して発展してきました。現代物理学は高度に発展し、それぞれの分野での専門性が高いですが、一方では、基本的な概念が広い領域で普遍的に用いられています。学群の4年間では、古典物理学から始まって、現代物理学の骨格を成す基礎的科目へ、さらには専門性の高い発展的科目を順番に学習することが必要です。それぞれの科目には標準履修年次を設定しています。

1年次…古典物理学を質点と場の観点から理解するとともに、数学・化学・生物学・地球科学などの自然科学を幅広く学びます。

2年次…古典物理学をさらに深く学び、現代物理学の骨格を成す量子力学などの基礎を習得します。

3年次…現代物理学についてより発展的な内容を学びます。

4年次…物理学の現代的な発展を学ぶとともに、研究室に所属して卒業研究を行います。

- 実施に関する方針

能動的な学習を促すためのe-ラーニングを活用した授業科目や、研究創造性、課題探究の力を育む実習の科目を開設しています。また、将来に国際的な舞台で研究を行う人材を輩出するために、外国人教員による授業科目を設置しています。

- 特色

一般的な講義形式の授業科目だけでなく、演習・実験・実習形式の科目や研究を経験することにより、知を実践する能力が得られます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

- 求める人材

高等学校のさまざまな科目についての基礎学力を有し、それを元にさらに物理学を学んでゆく能力を持った人材を求めます。また、広い視野を持ち、自ら学び、未知の物事に対して柔軟に対応できることが要求されます。

- 入学までに学んでおいてほしいこと

高校レベルでの物理ならび数学に関する知識と理解、さらにはそれを応用する基礎的な能力。

（入学者選抜方針）

- 個別学力検査等（前期日程）

一般的な基礎学力と、物理学を学ぶ上で必要な論理力・思考力・応用力を総合的に評価します。

- 個別学力検査等（後期日程）

一般的な基礎学力の評価に加えて、物理学を学ぶ上で必要な論理力・思考力・応用力、ならびに物理学における広い興味と高い学習意欲を総合的に評価します。

<p>●推薦入試 高等学校において優秀な成績を修めていることに加え、物理に関する高い関心と目的意識、学習に取り組む意欲等を総合的に評価します。</p> <p>●AC入試 自然科学に対する持続的な強い関心、独自に問題を発見し解決する高い能力、物理学に関連する基礎学力、そして物理学への学習意欲を総合的に評価します。</p> <p>●国際科学 オリンピック 特別入試 国際物理オリンピックに出場した者、またはその代表者選考会等において一定の成績を収めた者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を評価します。</p> <p>●国際 バカロレア 特別入試 自然科学に対する強い好奇心と国際的な広い視野を持ち、物理学に関連する基礎学力、そして物理学への学習意欲を総合的に評価します。</p> <p>●私費外国人留学生入試 協調性、物理に対する高い関心、そして入学後に物理学を学ぶのに必要な基礎学力を総合的に評価します。</p> <p>●編入学試験 大学2年生程度の基礎学力と物理学を学び修得するために必要な論理力・思考力・応用力を総合的に評価します。</p>
<p>学部等名 理工学群 化学類</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>）</p>
<p>（概要） 自然界における普遍的な法則と未知物質・未知現象の探求、機能性物質の創製と材料開発、環境問題やエネルギー問題の解決、生命現象の分子レベルでの解明などに必要な基礎的で幅広い化学の知識を有する人材を育成します。その上で、これらの知識と理解に裏打ちされた柔軟な思考力と国際的に活躍できる能力を有する人材の育成を目指します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>（概要） 筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。</li> <li>●物質を分子・原子・電子・化学結合レベルで理解している。</li> <li>●自然界における普遍的な法則と未知物質・未知現象の探求、機能性物質の創製と材料開発、環境問題やエネルギー問題の解決、生命現象の解明に関する化学的基礎知識を持っている。</li> <li>●これらの知識と理解に裏打ちされた柔軟な思考力と国際的に活躍できる能力を持っている。</li> <li>●他人と協調して化学に関する問題を解決することができる。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>（概要） 学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針 4年間で化学の専門性を養えるように、基礎から専門への積み上げ型の教育課程を編成・実施します。講義と実験を中心とした授業科目を設置するとともに、学生が能動的に学習に取り組めるようにするための演習科目や化学に関する総合能力を養うための卒業研究を設置しています。</li> <li>●順次性に関する方針 1年次においては、自然科学全般に関する基礎的知識を修得するとともに、専門化学を学ぶための基礎を修得するために、講義を中心とした教育を行います。</li> </ul>

2、3年次においては、基礎から専門までの幅広い化学の知識や技術を身につけるために、専門化学の体系的な講義および講義の進行に合わせた実習、演習を行います。また、国際的な化学情報の読解能力を修得するために、化学英語に関する講義を行います。

4年次には、先端的化学の知識を学ぶとともに、真理を探究するための化学研究と国際的な化学情報の探索の手法を修得させるために、卒業研究を行います。

●実施に関する方針

年次に合わせて化学のレベルが順次上がるように、基礎化学と専門化学のバランスを取った講義を実施します。自然現象を理解するための実験手法を修得するために、3年間各種実習を実施します。

自然の真理、未知現象の解明を行うための研究手法を修得するために、卒業研究を実施します。

化学分野で国際的に必要な英語を習得するために、化学英語の講義を実施します。

●特色

化学全般についての基礎学習がどのように実際の化学研究に結びつくかを理解させるために、先端的な化学研究を平易な言葉で紹介する機会を設けています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

自然界における物質的多様性と普遍的法則を追究し興味ある新規物質や未知現象を探究する能力と意欲を有する人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高校レベルの化学についての基礎的知識を修得し、それを応用する能力を身につけていること。数学、物理学、生物学など関連分野に関する基礎的知識と語学の基礎的な能力を持つことが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

全般的な基礎学力と、化学を学ぶ上で必要となる高度な理解力・思考力・応用力を総合的に評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

全般的な基礎学力と、化学を学ぶ上で必要となる理解力・思考力・応用力、化学に関する興味と意欲・表現力等を総合的に評価します。

●推薦入試

高等学校において優秀な成績を修めており、化学に関する高い関心、目的意識、学習に取り組む意欲等を総合的に評価します。

●AC入試

化学及び関連事項に対する強い関心を持ち、独自に問題を発見し、明確な目標のもとに主体的に学習し、問題解決する高い能力を総合的に評価します。

●国際科学オリンピック特別入試

国際化学オリンピックに出場した者、またはその代表者選考会等において一定の成績を収めた者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を評価します。

●国際バカロレア特別入試

自然科学に対する強い好奇心と国際的な広い視野を持ち、化学に関連する基礎学力、そして化学への学習意欲を総合的に評価します。

●私費外国人留学生入試

協調性、化学に対する高い関心、そして入学後に日本人とともに化学を学ぶのに必要な語学力、基礎学力を総合的に評価します。

●編入学試験

専門的な化学教育を受容できる基礎的な学力、化学に対する強い関心、論理力、思考力、応用力を総合的に評価します。

学部等名 理工学群 応用理工学類
教育研究上の目的 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a> )
<p>(概要)</p> <p>われわれの社会を維持・発展させ続けるために必要な最先端工学の基盤となる科学・技術を原理から理解し、さらに発展させることができる、創造力豊かな技術者・研究者を養成します。</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(工学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●最先端科学技術を原子・分子レベルで原理から理解できる基礎学力を備え、さらに発展・創造できる専門知識を身につけている</li> <li>●科学技術で直面するさまざまな課題を物理、化学、生物の学際的で幅広い視点から論理的に思考できる</li> <li>●チームのなかで活躍できる協調性や異分野の人とコミュニケーションして自己表現できる能力を身に付けている</li> <li>●国際的に活躍することができる語学力やプレゼンテーション能力を備えている</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
<p>(概要)</p> <p>工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修成果が学士(工学)の到達目標に達するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針 <p>高度に進化した現代社会において、自然科学の成果を技術面から社会に還元して貢献することを学類教育の使命とします。そのためには、最先端科学技術を原理に立ち返って理解、発展させるのに必須の基礎学力と、最先端科学技術の専門的知識や国際性を身につけるための教育カリキュラムを提供します。</p> </li> <li>●順次性に関する方針 <p>2年次までに、最先端科学技術を理解するための基礎的・論理的思考力を養成するため、数学と物理と化学を重点化した教育を実施します。特に、演習を十分に行い、論理的思考力に加えて計算能力や処理能力の養成を目標としています。基礎科学の体験的・実験的学習に加えて協調性を涵養する場として、物理学系と化学系の必修の実験を2年次に開講します。さらに、各専門分野の入門的・概論的講義(専門導入科目)を通じて、3年次以降の専門分野への導入教育も行います。3年次では、高度に発展し続ける科学技術に対応するために、4つの分野(主専攻)への振り分けを行い、専門性の高い講義と実験科目を提供します: 応用物理、電子・量子工学、物性工学、物質・分子工学。主専攻振り分けは、学生の希望を最大限配慮して行います。4年次では、すべての学生が学類教員のいずれかの研究室に配属され、授業に加えて、卒業研究を行います。自ら新しい価値を見出すための研究という能動的学習の遂行能力を養成します。そして、問題提起・解決能力に加えて、研究発表等を通して情報発信力の養成を行います。</p> </li> <li>●実施に関する方針 <p>専門分野教育においては、各分野で基礎となる共通性の高い科目(物理・化学・生物)を専門共通コア科目とすることで、分野横断的に俯瞰できる広い視野を有する学生を養成します。また、専門英語教育を3年次まで継続的に行うことで学生の語学力と国際性を高める教育をしています。</p> </li> <li>●特色 <p>低学年からのアクティブラーニングの一環として、研究に興味ある3年次までの学生を</p> </li> </ul>

支援する先導的研究者体験プログラム（筑波大学理数学生応援プロジェクト）への参加を促し、完了した学生には「応用理 工学実習Ⅰ」として単位認定します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

先端科学技術を原理・原則から理解するための基盤となる数学的・論理的思考力を有し、物理学・化学などの科学的基礎知識を備えたうえで、それらの先端的工学応用に興味を持つ人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

数学Ⅲまでの数学および物理基礎・物理、化学基礎・化学の十分な知識・理解力・応用力を有していることが望ましい。また、生物基礎程度の基礎的知識と理解力が備わっているとさらに望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

科学の技術分野への応用やミクロな自然法則に基づく科学・技術の習得に必要なとされる数学や理科の学力を中心に判断します。基礎学力と進学後の勉学に対する適性を評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

先端技術を科学の視点から本質的に理解する基礎学力を持ち、かつ大学進学後の勉学の目的を明確に示すことができ、物理・化学法則に基づく工学分野へ進む意欲を持つ人材を選抜します。

●推薦入試

高等学校において優秀な成績を修めていることに加え、自然科学の技術分野への応用を理解し、自然法則や物質、材料に関連する事柄について自分の興味や進路を適切に表現できる能力を持ち、かつ考察能力、分析能力を有する人材を選抜します。

●国際 バカロレア 特別入試

先端科学技術を科学の視点から理解し発展させるために必要な強い意欲と数学や物理に関する基礎学力を有し、これを学ぶに必要な日本語および英語の語学力を有する人材を選抜します。

●私費外国人留学生入試

協調性、工学に対する高い関心、そして入学後に工学を学ぶのに必要な基礎学力とコミュニケーション能力を総合的に評価します。

●編入学試験

専門的な工学教育を受容できる大学2年生程度の基礎学力と勉学意欲、工学に対する強い関心と論理的思考力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。

学部等名 理工学群 工学システム学類

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/>）

（概要）

安全で安心であり、快適で豊か、かつ持続可能な人間生活を工学面から支え牽引できる人材、すなわち、

1. 広い分野に応用できる基礎能力、
2. 広い視野を持った仕事の遂行能力、
3. 社会人・職業人としての人間基本力

を身につけた技術者・研究者を養成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

(概要)

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修の成果が以下に示す所定の水準に達したと認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。

- 広い分野に応用できる基礎能力については、数学・物理学・コンピュータなどに係る専門基礎科目を修め、これらの知識を応用して工学的な諸問題を分析できることを求めます。
- 広い視野を持った仕事の遂行能力については、各主専攻の専門科目を修め、これらの知識を応用して科学技術と社会の関連を理解し、新たな技術を企画し、システムを設計することなどを求めます。さらに、実験・卒業研究などで、同級生との協調・指導教員の指導などを経て、問題点に対する具体的な解決策を考案し、計画的に仕事を進められることなどを求めます。
- 社会人・職業人としての人間基本力については、外国語・実験・卒業研究などの科目を修め、コミュニケーションとプレゼンテーションができること、技術者としての倫理観を持つことなどを求めます。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

(概要)

工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修成果が学士（工学）の到達目標に達するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

きわめて広い工学分野をカバーしている本学類は、知的工学システム、機能工学システム、環境開発工学、エネルギー工学の4主専攻で構成されています。各主専攻で学ぶ内容に多少の違いはありますが、他主専攻の科目の履修は容易であり、また最終学年における研究室配属において主専攻の壁は設けません。主専攻による専門性の違いをある程度は保ちながら、できる限り分野横断性を重視するカリキュラムを用意しています。

●順次性に関する方針

1・2年次は様々な専門分野を横断的に学ばせるカリキュラム体系により、工学システム学類のどの主専攻にも対応できる基礎能力を養うとともに、横断的に工学分野を捉えた「工学システム」の概念を学習します。

2年次からは四つの主専攻に分かれ、様々な専門分野の特色ある科目を選択し、深い専門知識を習得します。

2年次および3年次は各主専攻における基礎実験・専門実験・応用実験と関連の専門科目の履修を通して、様々なシステムの設計を行うために必要な統合創造解決能力を養います。また、全ての実験は数名の班を単位として実施されるため、チームワーク力の涵養にも役立ちます。

4年次は、主専攻分野に限定することなく学類内の希望する研究室の一つに配属させ、習得した基礎能力と幅広い専門知識を生かして、卒業研究を完成させます。これにより人々の生活に役立つ工学的なシステムを構築する能力をもった技術者を育成します。また、2年次までの成績が優秀な学生は、3年次に特別卒業研究を実施して早期卒業も可能です。

●実施に関する方針

本学類では社会が要請する教育水準を確保するため、実務系などの複数の専門科目において産業界からの非常勤講師を積極的に任用し、またネイティブスピーカーによる専門英語科目を開設しています。更に、各学年で実施する実験・演習科目のために十分な数の実験室と装置、ならびに多数の学生が同時に利用可能な大規模なプログラミング演習室を用意しています。また、毎学期、学生に対してクラス担任による個人面談を行い、学修をきめ細かく指導しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●求める人材 <ul style="list-style-type: none"> <li>①工学系に必要な基礎学力とセンスがあること。</li> <li>②好奇心と学習意欲に溢れていること。</li> <li>③技術者になるという明確な目的意識があること。</li> <li>④優れた思考力、判断力、表現力とコミュニケーション能力を身につけていること。</li> </ul> </li> <li>●入学までに学んでおいてほしいこと <ul style="list-style-type: none"> <li>数学Ⅲと物理基礎・物理の内容および基礎的な英語能力を身につけていること。</li> </ul> </li> </ul> <p>(入学者選抜方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●個別学力検査等 (前期日程) <ul style="list-style-type: none"> <li>自然科学、数学における基本的な概念や原理・法則への理解の深さ、事象を自然科学的に考察して理解するとともに数学的に処理する能力の高さを評価します。</li> </ul> </li> <li>●個別学力検査等 (後期日程) <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の評価に加えて、工学的システムに対する関心の高さと、自然科学や数学における基本的な概念の理解の深さ、並びに、勉学への意欲を評価します。</li> </ul> </li> <li>●推薦入試 <ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校在学中における、授業科目の学習と生徒会やスポーツなどの課外活動への取り組みの両立を評価するとともに、数学など工学系に必要な基礎学力と科学的思考姿勢と工学センス、並びに、思考力、判断力、コミュニケーション能力などを評価します。</li> </ul> </li> <li>●AC入試 <ul style="list-style-type: none"> <li>本人からアピールされた、今までの経験、ものに継続的に取り組む態度、数学・物理の基礎学力をその運用力、論理的な文章を作成する能力、コミュニケーション能力に基づいて、技術者になるという明確な目的意識、並びに、興味の深さと広さ、積極性、行動力、表現力を評価します。</li> </ul> </li> <li>●国際 バカロレア 特別入試 <ul style="list-style-type: none"> <li>自然科学や数学の基礎学力に加えて、主体的に学び考える力およびコミュニケーション能力、工学を積極的に学ぶ強い学習意欲を評価します。</li> </ul> </li> <li>●私費外国人留学生入試 <ul style="list-style-type: none"> <li>工学に対する関心や理解力の高さ、日本語能力に加え、入学後の学修に必要な基礎学力を総合的に評価します。</li> </ul> </li> <li>●編入学試験 <ul style="list-style-type: none"> <li>専門的な工学教育を受容できる基礎学力と勉学意欲、工学に対する強い関心と論理的思考力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。</li> </ul> </li> </ul>
<p>学部等名 理工学群 社会工学類</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>人間行動が複雑に絡み合う社会的諸問題を工学的・実践的・戦略的に分析するために必要な文理融合型思考能力を持ち、総合的な問題解決のためのシステムを設計できる人材を養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(社会工学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●経済・企業・都市などの社会システムに関する基礎的理解と洞察力を有し、社会環境における不確実性を縮減するための具体的政策を提言することができる。</li> <li>●複雑な社会が直面する諸問題を解決するために、数学(微積分・線形代数)・統計学(データ解析)・情報技術(プログラミング)に関する知識をツールとして用いることができる。</li> <li>●現代社会が直面するグローバルな問題の本質を見極めることができる。</li> </ul>

- 経済学・経営工学・都市計画等の多面的な視点から社会的要請に柔軟に対応できる。
- 経済学・経営工学・都市計画分野における専門家・技術者としての職業倫理を遵守できる。
- 客観的で説得力のあるコミュニケーション・スキルを持つ。
- 英語を用いた基礎的なコミュニケーション・スキルを持つ。
- チームによる協働が必要な場合は、その一員として協調的に行動できる。
- 主体的に課題を探究し、自主的・継続的に学習することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

（概要）

学士（社会工学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

現代社会が直面する複雑・多様な諸問題は、もはや伝統的な学問の個別領域が単独で解決することが困難となってきています。このような現状に対処するため、社会経済システム・経営工学・都市計画の3つの主専攻分野を設け、政府・地方自治体・企業組織・地域社会が策定する政策や計画の決定過程に科学性を導入できる専門性と学際性の両面に優れた能力を身に付けられることを目標としています。このため、入学時には主専攻を決めず、2年次春学期の履修をふまえた上で、2年次秋学期に自己の専門性を高めるための主専攻を決める仕組みとしています。また主専攻に加えて副専攻の選択も可能としています。

●順次性に関する方針

2年次春学期までは主として当学類の専門科目を学ぶために必要な専門基礎科目を履修します。その中には3主専攻の専門科目への入門的な性格を持つものも含まれています。

2年次秋学期から主専攻に所属し、専門科目を履修します。専門領域の構造を分かり易く示すために、各主専攻の専門科目をエリアという科目群に分けて、学生が学際的な専門性を身につけることを奨励しています。さらに、成績優秀者の場合、3年次で卒業が可能なプログラムとなっています。

4年次進級後、1年間を通して卒業研究を行います。工学、経済学、経営学、統計学、心理学、社会学など多彩な専門分野の研究者の中から指導教員を選び、理論的・実践的な研究を行います。

●実施に関する方針

各主専攻の全エリアに演習を開設し、学生が主体的に理論と実践の学習に取り組めるように工夫しています。また、プレゼンテーションやディスカッションのスキルを演習を通じて徹底的に訓練することにより、実社会で生起する諸問題を工学的・実践的・戦略的に解決するために必要なスキルを身に付けられるようにしています。

●特色

実社会体験を行うインターンシップを教育に取り込み、社会が直面する諸問題を実際に体験したり、将来の仕事のイメージを現実的なものとしてつかめる機会を設けています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

社会・経済、企業・経営、都市・地域において生起する多種多様な社会問題を認識し対処するために必要な学際的思考力を修得し、国際社会に貢献できることを希望する人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

社会・経済現象、企業経営、都市計画上の問題に対して高い関心を有し、かつ論理的・数理的な思考ができること。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

数学と外国語の基礎学力とともに、高等学校における国語・社会・理科の学習内容の理解度を評価して選抜します。

●個別学力検査等（後期日程）

高等学校における学習内容の理解度とともに、現代社会の課題や動きについての関心度、

<p>論理的・数理的的分析力、自分の言葉で表現する能力を評価して選抜します。</p> <p>●推薦入試 高等学校における学習習慣と、入学後の学習に必要な基礎学力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。現代社会の課題や動きについての関心度、論理的・数理的的分析力、自分の言葉で表現する能力を評価します。</p> <p>●国際 バカロレア 特別入試 数学の基礎学力を有し、国際的な経験を通して広い視野を持ち、一連の学習活動を主体的に行うことのできる明確な目的意識と勉学意欲を持つ人材を選抜します。</p> <p>●私費外国人留学生入試 広い視野を持ち、入学後の学習に必要な基礎学力・日本語能力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。社会の出来事や課題についての関心度、論理的・数理的的分析力、表現能力を総合的に評価します。</p> <p>●編入学試験 社会工学における専門的知識を修得できる基礎学力と勉学意欲、社会工学に対する強い関心と論理的・数理的思考力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。</p>
---

<p>学部等名 情報学群</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p> <p>（概要） 知識と情報の記録、蓄積、共有、加工、利用といった諸活動にかかわる様々な情報技術やその原理となる科学を理解し、それらを使いこなす「21世紀の創造を担う人材」を養成します。また、科学的、技術的な側面だけでなく、人間の知的活動や社会的・文化的基盤についても十分な知見を身につけることを目指します。</p>
<p>学部等名 情報学群 情報科学類</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>）</p> <p>（概要） 現代社会の原動力である情報を生成・伝達・変換・活用するための工学的な技術やその原理となる数理や自然科学を理解し、それを実社会における様々な問題に適用して解決する実践力を備え、グローバルな視点に立って情報技術の発展を主体的に担うことができる人材を養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p> <p>（概要） 筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報科学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな情報学的素養と高い社会倫理を身につけている</li> <li>●ソフトウェアサイエンスを中心とした情報科学全般にわたる高度な専門性を持つ</li> <li>●情報科学における革新的技術を生み出せる高い創造力とチャレンジ精神を備えている</li> <li>●社会の情報基盤を支える実践的技術力と問題解決能力を備えている</li> <li>●国際的に活躍できるグローバルな視野とコミュニケーション能力及び協働力を持つ</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p> <p>（概要） 学士（情報科学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針 ハードウェア・ネットワークからソフトウェア・知能メディアまで、情報分野における国際標準のカリキュラムを包含し、最新の技術動向を反映した質の高いカリキュラムを提供します。情報科学・工学に関する幅広い知識とともに、プログラミング言語理論や数理モデリング、ソフトウェア科学、知能インタフェースなどの情報科学分野における高度な専門性を身につけることができるようバランスのとれた教育を実施するとともに、学生が</li> </ul>

自ら選択し学ぶことを重視します。

●順次性に関する方針

1・2年次には、英語を含む外国語、幅広い分野から自ら選択して学習する科目、体育などを通じて、社会人として活躍するための教養を身につけます。また、数学・物理学など情報科学・工学の基礎となる科目群を修得するとともに、ハードウェア、プログラミング、アルゴリズムなど情報分野全般にわたる基盤となる事項を実習や実験を交えて学習します。

3年次には、ソフトウェアサイエンス主専攻のカリキュラムの基で、数理モデリングとソフトウェア科学などを中心とした授業により、情報科学に関する高い専門性を獲得するとともに、ソフトウェアサイエンス実験により、実践的技術力と問題解決能力を獲得します。また、情報システムや知能情報メディア分野などを含めた広範な情報科学・工学における専門的学習を行うことにより、幅広い専門知識と専門技術を獲得します。

4年次においては、上記の学習に加えて、卒業研究・専門語学により情報科学における革新的技術を生み出せる創造力とチャレンジ精神を滋養するとともに、国際的な視点からの発想力とコミュニケーション能力、協調性を身につけ、実社会で通用する能力を獲得します。

●実施に関する方針

情報科学・工学の専門科目のみならず、数学、物理、英語などの基礎となる科目においても、演習やコンピュータによる実習・実験を多く取り入れ、講義で得た知識や技術への理解を深める教育を実施します。また、学生が自らテーマ設定・計画立案をして学習する科目など、学生の自主性を引き出すための科目群を用意します。

●特色

「組み込み技術キャンパス OJT プログラム」では、企業で製品開発に携わる講師による実践的教育をキャンパス内で受けることができます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

情報科学や情報技術への好奇心と探求心を持ち、習得した知識を創造的に活用・発展させて情報化社会の中核を担う意欲のある人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

情報科学や情報技術についての基本的な理解力を身につけていることが望ましい。数学的な知識も備えていることが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

数学、理科、外国語の基礎学力に加えて、高等学校等における主体性をもった活動の状況を評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

総合的な基礎学力に加え、情報科学や情報技術への関心や学習意欲、学習に必要な論理的思考能力や応用力を評価します。

●推薦入試

高等学校における学習状況と課外活動への取組みとともに、情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、自己表現能力、論理的に思考しその結果を的確に説明するコミュニケーション能力等を総合的に評価します。

●AC入試

情報科学や情報技術、または関連する分野に強い関心を持ち、自ら研究課題と明確な目標を設定して問題の分析や解決を創造的に図る意欲と能力を有し、その過程と結果を論理的に説明することのできる人材を選抜します。

●国際科学 オリンピック 特別入試

日本情報オリンピック本選でAランクとなった者、または情報処理推進機構が主催する未踏IT人材発掘・育成事業に採択されたテーマのクリエイターを対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ能力を評価します。

<p>●国際 バカロレア 特別入試 情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、論理的思考能力、語学力を含めたコミュニケーション能力等を総合的に評価します。</p> <p>●私費外国人留学生入試 情報科学や情報技術への関心や学習意欲、数学の基礎学力と論理的思考力、日本語によるコミュニケーション能力等を評価します。</p> <p>●編入学試験 情報科学や情報技術を学ぶために必要な数学、情報基礎、物理学の学力、専門的知識を学ぶために必要な大学2年次修了程度の英語（TOEFL/TOEIC スコアによる）の学力を総合的に評価します。</p>
<p>学部等名 情報学群 情報メディア創成学類</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>）</p>
<p>（概要） これからのネットワーク情報社会を発展させるために不可欠な基盤的技術分野や、Web・映像・音楽などの多種多様な情報をコンテンツとして扱い流通させる分野などにおいて、革新的技術や科学的理論を創造的に生み出すことができる技術者、研究者を養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>（概要） 筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報メディア科学）の学位を授与します。</p> <p>●専門性…情報メディア科学に関する概念、原理、理論、技術を体系的に理解し、それらに関する研究開発を行うことができる。</p> <p>●デザイン力…工学・科学における機能美や実現可能性を論理的思考に基づいて客観的に判断できる審美的素養を備え、それに基づいて実システムとして設計できるデザイン力を身につけている。</p> <p>●ヒューマンスキル…プロジェクトチームで協働できるコミュニケーション能力、課題発見能力、問題解決能力を身につけている。</p> <p>●倫理観…知的財産保護や個人情報保護等の技術と社会における倫理観を備えている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>（概要） 学士（情報メディア科学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <p>●総合的な方針 コンテンツの蓄積や流通を支えるネットメディアテクノロジーと、コンテンツの活用・製作にかかわるコンテンツテクノロジーの2領域を中心に、これら2領域に欠かすことのできない情報科学・技術分野の教育を融合した情報メディア科学のカリキュラムを提供します。幅広い知識と高度な専門性を学生の主体的選択により身につけることができるような科目群を提供します。</p> <p>●順次性に関する方針 1年次では、線形代数や解析といった数学科目とリテラシーやプログラミングの情報技術科目を中心に、情報科学・技術分野における基礎力を身につけるとともに、コンテンツ処理に関する導入科目でアートの素養などを身につけます。 2年次では、データやアルゴリズム、ネットワークに関する科目、人・文化・社会に対する広い視野と教養を養うための人間の科学やネットワーク社会とビジネスに関する科目などにより、1年次の基礎力に幅をもたせ情報科学に関する確かな技術力と応用力、倫理観を身につけます。 3、4年次では、情報メディア科学に関する6つの分野（インターネット・通信技術、コンテンツの蓄積・流通技術、インタラクション技術、コンピュータサイエンス、コンテン</p>

ツ処理・活用技術、コンテンツ制作基盤技術)の専門科目が幅広く提供されており、また長期にわたって1つのテーマを追究する実験科目の履修とあわせて、専門性はもとより、ヒューマンスキルや実践力なども身につけます。そして、4年次の卒業研究により、情報メディア科学における専門知識、技術力などの総仕上げを行い、革新的技術や科学的理論を創造的に生み出すことができる実践力を身につけます。

●実施に関する方針

履修計画やモチベーションに応じて、自由に科目を選べるカリキュラムとなっています。これにより、学生自身の希望や適性に適合した多様な履修計画が可能となり、社会のニーズに応じた様々な進路に対応できます。また、ダイナミックに変容しているネットワーク情報社会の現状、未来を見据え、産業界から招聘した講師陣による、実体験を踏まえた指導も生かして、時代のニーズに合うカリキュラム構成となるよう、不断に見直し、改変を進めていきます。

●特色

「組み込み技術キャンパス OJT プログラム」を始めとして、先端 IT ベンチャー企業等との連携により、実社会で真に必要とされる技術の修得を目指す演習・実験科目を実施しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

理数系の素養と文化や芸術に対する豊かな感性を兼ね備え、ネットワーク情報社会における各種の技術や学問分野に対する強い興味と学習意欲を持ち、創造的に社会貢献することを目指す人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

在学中に学んだ科目、特に数学や英語についてはよく復習して内容を身につけておくこと。また、情報ネットワークを基盤とする社会全体に対して広く関心を持ち、知識や見識を意欲的に広げていくことを普段から心がける姿勢。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

幅広い基礎学力に加えて、数学並びに外国語の学力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

幅広い基礎学力に加えて、情報メディアの科学と技術を理解するために必要な数学並びに英語の学力、論理的な思考能力、分析力、論述能力を総合的に評価します。

●推薦入試

高等学校在学中の学習状況や基礎学力、課外活動への取り組みとともに、情報メディアの科学と技術に対する学習意欲や目的意識、自己表現能力、自己分析能力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。

●AC入試

コンテンツやネットワークメディアを支える情報メディアの科学と技術において、研究課題を自ら設定する創造性と意欲、課題を緻密に分析し創造的に解決する問題解決能力、その過程および結論を論理的に説明できる能力を総合的に評価します。

●国際科学 オリンピック 特別入試

日本情報オリンピック本選でAランクとなった者、または情報処理推進機構が主催する未踏IT人材発掘・育成事業に採択されたテーマのクリエイターを対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ能力を評価します。

●国際 バカロレア 特別入試

情報メディアの科学と技術に対する学習意欲や論理的思考能力、理解力、及び本学類での学修に必要な数学などの基礎学力や日本語でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

●私費外国人留学生入試

情報メディアの科学と技術に対する学習意欲や論理的思考能力、理解力、及び本学類で

<p>の学修に必要な数学などの基礎学力や日本語でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。</p> <p>●編入学試験※</p> <p>情報メディアの科学と技術に対する高い学習意欲と、専門科目に関する知識を学ぶのに必要な大学2年次修了程度の英語（TOEFL/TOEIC スコアによる）、数学および情報基礎の学力を有する人材を選抜します。</p> <p>※情報科学類との併願が可能です。</p>
<p>学部等名 情報学群 知識情報・図書館学類</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>知識や情報を活用する能力を育み、関連する社会制度と技術の専門教育を行います。これらの教育を通じて、知識資源の形成、加工、流通、利用の発展に寄与する専門家と人間、社会、技術にわたる総合的視野や問題解決能力を持った職業人を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>筑波大学学士課程の教育目標及び本学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（図書館 情報学）の学位を授与します。</p> <p>●哲学、歴史、数理、情報など、文理にわたる幅広い基礎教養と社会に対する総合的視野を獲得していること</p> <p>●人間が知識を伝達・共有する過程を哲学、社会学、情報学の観点から理解していること</p> <p>●数量的に測るアンケート調査と数量では表すことのできない内容を扱う質的調査の双方の調査方法を理解し、分析する技術を修得していること</p> <p>●電子書籍の作成や目録検索システムの開発など、情報資源を構築・管理・提供するための技術を修得していること</p> <p>●多面的な情報検索スキルを有し、それを活用できること</p> <p>●理解した知識をよりわかりやすく人に伝えるスキルを修得していること</p> <p>●物事を多面的に眺め、文化の違いや価値観の違いを許容する姿勢を身につけていること</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>学士（図書館情報学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。</p> <p>●総合的な方針</p> <p>三つの主専攻に分け、知識科学主専攻では「人間」、知識情報システム主専攻では「技術」、情報資源経営主専攻では「社会」をキーワードに教育を行います。どの主専攻においても幅広い視野を養い、専門領域の内容に即して、人間、技術、社会・文化の結合と相互の役割を理解するための科目を展開します。</p> <p>●順次性に関する方針</p> <p>1 年次では、総合科目、外国語や体育などの基礎科目に加えて、知識情報、情報システム、情報社会と法制度などについての概論や、プログラミング入門などの専門基礎科目を通して、基礎的知識や技術を学びます。</p> <p>2 年次では、1 年次に得た知識や技術をさらに深めていくため、主要なテーマごとに設定された講義と、技術を修得する知識情報演習などからなる専門基礎科目を履修します。</p> <p>3 年次では三つの主専攻のいずれかに属して、専門科目を履修します。多様な視点を育成するため、所属する主専攻の専門科目だけでなく、他の主専攻の専門科目も履修することが要求されます。</p> <p>4 年次では、研究室に所属して卒業研究を行い、論文を執筆します。</p> <p>●実施に関する方針</p> <p>科目数を厳選し、その多くを必修とすることですべての学生が一定水準以上の文理融合</p>

型の基礎を身につけるよう配慮しています。各年次に必修として演習・実習を配し、応用的・実地的な文脈で総合的に理解する仕組みを提供しています。また、図書館や企業における「インターンシップ」及び海外研修科目として「国際インターンシップ」を実施しています。

●特色

先輩が色々な相談にのってくれる「春日ラーニングコモンズ」を図書館情報学図書館に設置しています。ここでは履修計画の立て方、学生生活の過ごし方、授業で出された課題のヒント、レポートの書き方、図書館の使い方などが教えてもらえます。「組み込み技術キャンパスOJT」や「分野・地域を越えた実践的協働ネットワーク(enPiT)」ではシステム・ソフトウェア開発の実践的教育も受けることができます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

文理融合型カリキュラムの下で、知識・情報の蓄積・流通にかかわる社会や文化、人間の行動、情報技術を幅広く学ぶ意欲を持つ者。特に、問題を主体的に見だし、率先して解決に取り組む自律的な姿勢を持つ者。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高等学校までの学習内容に広く関心を持ち、特に英語、国語、数学（数Ⅱ・数Bまで）の基礎学力を身につけていること。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

外国語、数学に加えて文科系科目または理科系科目のいずれかの深い理解と、知識に基づいた論理的思考力、応用力を評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

総合的な基礎学力に加えて、論理的思考力、表現力、広い視点からの発想を評価します。

●推薦入試

高等学校で学習する全教科がバランス良く優れていることに加え、論理的思考力、コミュニケーション能力、説得力、豊かな発想を評価します。

●AC入試

社会における情報の伝達や知識の創造に関して幅広く興味を持ち、関連した課題を自ら発見し、分析・解決していく能力を評価します。課題の分析結果を論理的に説明することや、説得力のある提案ができることも評価します。

●国際バカロレア特別入試

主体的に学ぶ意欲のある者を対象として、語学力を含む基礎学力や論理的思考力、コミュニケーション能力、説得力を評価します。

●私費外国人留学生入試

知識と情報に関連した内容に深い関心と問題意識を持ち、理解力、思考力、表現力や日本語能力に加えて、大学での学修に必要な基礎学力を有する人材を選抜します。

●編入学試験

知識と情報に関する領域で学んだ知識・技術を深めたり、異なる領域で学んだ知識・技術を基に新しい領域に挑戦したりする意欲と学力を有する人材を選抜します。

学部等名 医学群

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

（概要）

良き医療者、すなわち優れた医療技術のみならず、しっかりしたコミュニケーション能力に裏打ちされた全人的対応のできるグローバルスタンダードに則った医療人、さらには医学、看護学、医療科学の分野における世界レベルの研究者を養成します。

学部等名 医学群 医学類
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a> )
<p>(概要)</p> <p>基本的な臨床能力と医学研究能力を備え、高い問題解決能力と良好なコミュニケーション力をもって、患者の立場を配慮した医療を行うことのできる人間性豊かな医師を育成します。将来優れた専門医、医学教育者、医学研究者、あるいは保健・医療・福祉行政者として、それぞれの分野でグローバルな活躍をもって社会に奉仕し貢献することが期待されます。</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
<p>(概要)</p> <p>筑波大学学士課程における学修成果すなわち、医学類卒業時コンピテンシーを修得したと認められる者に、学士 (医学) の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プロフェッショナリズム <p>豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識と倫理観を有し、人の命と健康を守る医師になる者としての自覚と責任感をもって医療を実践できる。常に向上心を持ち、省察を行い、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。</p></li> <li>●科学的思考 <p>事象について、好奇心・探究心を持って科学的な視点でとらえるとともに、未知の問題を解決するための科学的な方法を理解できる。</p></li> <li>●コミュニケーション <p>多職種を含むチームで連携し患者中心の医療を提供するために、患者やその家族、およびチームメンバーとの間で適切にコミュニケーションをとることができる。</p></li> <li>●診療の実践 <p>医療の基盤となっている基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を有し、それを応用して、患者の問題を全人的に理解し、それを解決するための適切な診療を実践できる。</p></li> <li>●医療の社会性 <p>人間個体はもちろん、地域・社会あるいは人類全体の問題を広くとらえ、保健・医療・福祉の関連法規、制度、システム、資源を理解した上で、社会基盤に基づく地域・社会の健康を支える活動を実践できる。</p></li> <li>●未来開拓力 <p>自身の未来を切り拓き、広く社会に貢献するために、グローバルな視野を持ち、困難な状況においてもたくましくしなやかに、積極果敢に挑戦する姿勢を示す。また、「教育の筑波」としての伝統を継承し、情熱をもって教育を実践し、周囲と協働してリーダーシップを発揮できる。</p></li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a> )
<p>(概要)</p> <p>学士 (医学) に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針 <p>全国の医学部に先駆けて、開学当初より基礎医学・臨床医学・社会医学を統合した6年間一貫教育を取り入れており、自己学習能力・問題解決能力の涵養を重要視していること、体験型プログラムが充実していることが特徴です。</p></li> <li>●順次性に関する方針 <p>1～3年次…医学の基礎コース 8～9人の少人数グループに分かれ、チューター教員のファシリテートを受けつつ、事例を用いた討論や自習により自ら問題解決を行う学習方式「PBL テュートリアル」が中心です。基礎・臨床・社会医学の分野が統合された28コースから構成されます。 4～6年次…診療参加型実習 (クリニカル・クラークシップ) 従来の見学を中心とする臨床実習とは異なり、医療チームの一員の Student doctor とし</p></li> </ul>

て参加型の臨床実習を行います。前半の1年間は大学病院を中心とした内科、外科などの必修診療科での実習を行い、後半では選択実習の他に、茨城県内の地域の医療機関における実習も行います。実習の前には、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う、CBT（コンピュータを用いた知識の評価）とOSCE（基本的診療技能・態度の実技に関する客観的評価）に合格しなければなりません。

#### 1～6年次…医療概論

医療倫理、チーム医療、地域医療（プライマリ・ケア）、ヘルスプロモーション、医師患者関係など、上記の臓器系統別のプログラムでは修得が難しい領域を体系的に学びます。

6年次…アドヴァンスト・エレクトィブズ各自の希望により、大学内外・国内外の医療機関、研究室、行政などで実習を行います。

#### 1～6年次…研究室演習・実習

自分が興味を持った分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、最先端の医学研究を行います。5年次後半から「新医学専攻」を選択し将来の医学研究へつなげる道、卒業後直ちに大学院博士課程へ進学する道（研究者養成コース）も用意されています。

#### ●実施に関する方針

自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を身につけさせるために、低学年では、少人数制によるチュートリアル方式を全面的に採用しています。この学習を支援するために、リソースパーソン（教員）を配置、e-learning環境など学習サポート体制を整備し、教授法の向上を目指した教員研修会を定期的の実施しています。

臨床実習は、大学附属病院各診療科を中心に行う他に、大学教員が茨城県内の地域医療の現場で直接指導を行う地域医療教育センター・ステーション制度も活用して行います。

#### ●その他特筆すべき特色

英語教育改革や国際バカロレア特別入試を実施するなど、広く世界から国際感覚豊かな学生を募り、世界で活躍できる医師を養成しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

#### ●求める人材

自然科学、語学等の十分な基礎学力と豊かな創造性、探求心を有し、高い倫理観、協調性、コミュニケーション能力を持って、生涯にわたり人類の健康と福祉に貢献する強い意志を持つ人材。

#### ●入学までに学んでおいてほしいこと

自然科学、外国語についての十分な知識と理解、さらに応用する能力が必要である。特に自然科学や医学に関する英文記事を理解し要約する能力や、グループの中で積極的に討論に参加したり、意見をまとめる能力を備えていることが望ましい。

#### ●個別学力検査等（前期日程）

広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力など総合的な人間性について評価します。

#### 【地域枠】

上記に加え、将来茨城県の医療を担う強い意志を有する人材を、総合的に評価します。

#### ●推薦入試

高等学校で学習する全教科がバランス良く優れている者の中から、医師となる資質が十分な人材を小論文、面接によって総合的に評価します。

#### 【地域枠推薦入試】

上記に加え、将来茨城県の医療を担う強い意志を有する人材を、総合的に評価します。

#### ●国際バカロレア 特別入試 並びに 海外教育 プログラム 特別入試

広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力など総合的な人間性について評価します。

#### ●私費外国人留学生入試

広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、日本語での学習能力、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力など総合的な人間性について評価します。

<p>●海外教育プログラム 特別入試          広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力等総合的な人間性について評価します。</p> <p>●編入学試験          広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力など総合的な人間性について評価します。</p>
<p>学部等名 医学群 看護学類</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>）</p>
<p>（概要）          広い教養と深い人間理解を基盤に、人々のニーズに合った質の高い看護を提供し、保健・医療・福祉チームの一員として協働できる優れた看護職を育成するとともに、保健医療分野における行政官、国際的な視野に立った看護職など、広く社会に貢献する人材を養成することを目的とします。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>（概要）          筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教養教育（リベラルアーツ）の学習に裏付けられた専門科目を修得している。</li> <li>●臨床で活用できる知識や技術、および高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度を身につけている。</li> <li>●自ら新たな知識・技術を学ぶ態度と習慣を身につけ、未知の問題を解決する能力を獲得している。</li> <li>●生涯にわたって自己学習を継続する能力を備えている。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>（概要）          学士（看護学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針              総合大学の特性を生かして、他学類の学生と総合科目などを通じて学習交流できる場を提供しています。理論と実践が乖離しないように、学内の演習では、現職の臨床看護スタッフを招き、現状での最先端技術に対応できるような、現実に即した実践能力の向上を目指した教育を行なっています。また、実習においては附属病院との連携を深め、最新の医療・ケアの体験を通して学ぶ機会をつくっています。</li> <li>●順次性に関する方針              1年次・2年次では、看護の専門的な役割理解を中心に、看護の基盤となる「生活援助科学」を学習の起点とし、専門分野の学修に結びつくようなカリキュラム構成としています。また、人間環境論や家族社会学など、看護の専門基礎科目を充実させ、広い視野に立って看護学の専門性が理解できるような工夫も行っています。3年次から4年次にかけては、看護実践科学（成人看護学、精神看護学、高齢者看護学、母性看護学、小児看護学）の学びによって、各分野のエビデンスに基づいた高度専門技術を学修します。学修支援として、客観的臨床実技試験（OSCE）などを実施し、技術習得の向上を図っています。また、地域看護、在宅看護の学びによって、保健医療福祉行政などの知識を修得します。さらには、グローバルな人材育成を目指すため、応用看護・国際看護の学びを通して、国際的な視野に立った看護実践を学ぶ機会を提供しています。</li> <li>●実施に関する方針              自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を養うために、少人数制によるテュートリアル方式を採用した演習・実習を行っています。これらの学習を支援するために、いつでもどこでもコンピューターネットワークを通じて、効果的な学習支援が可能なe-learningの充実を実施し、それらの学習成果を自己点検できるように、インターネット</li> </ul>

を通じて試験が可能な IBT などの導入を図り、情報環境の活用による学習のサポート体制を整備しています。また、教員の教育力のアップを図る目的で、ファカルティ・ディベロップメント（教授法の向上を目指した教員研修会）を積極的に実施しています。

●特色

看護の専門性に合わせてコース選択を行うことができます。つまり看護師免許の受験資格は基本的資格要件として全員が資格取得可能なカリキュラムとし、その他、保健師コース、養護教諭コースを選抜制で設けています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

科学的な知識や語学力などの十分な基礎学力を有し、看護学に関する深い興味と関心があり、新しい保健医療福祉を支えるための看護技術を探求し開発できる能力と意欲を有する人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高等学校での学習内容を深めておくと共に、とくに生物学および外国語については、十分な知識を有し理解していることが望ましい。また、優れた文章読解能力や文章表現能力を有していることが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

国語、理科、英語の学力を中心に、基礎学力を評価するとともに、看護を志向する動機、適性、感性、社会的適応力及び人間性等について総合的に判断します。

●推薦入試

看護に関連する分野において必要とされる明確な問題意識と優れた洞察力について評価します。また、クラブ活動、地域活動、社会活動等の実績について評価します。

●国際 バカロレア 特別入試

看護に関連する分野において必要とされる明確な問題意識と優れた洞察力、大学で看護学を修得するために必要な基礎知識ならびに思考力や学力などを総合的に評価します。

●私費外国人留学生入試

海外生活の経験を活かし、国際性と協調性を身に付け、グローバルな視点から保健医療福祉の分野を探求する意欲と能力をみます。

●私費外国人留学生 Japan-Expert（学士）プログラム 特別入試

基礎学力とヘルスケアシステムやヘルスケア技術を学習する動機、日本語での学習能力、適性、感性、社会的適応力、並びに人間性について総合的に評価します。

●編入学試験

医療人としての更なる飛躍を目指す動機に加えて、大学で看護学を修得するために必要な基礎知識ならびに思考力や学力などを総合的に評価します。

学部等名 医学群 医療科学類

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/>）

（概要）

医学・医療の様々な分野で活躍するために必要な医科学の基礎的な知識、技能を修得し、医療人としての使命感と責任感を身に付け、将来、医療の向上と発展に貢献する医科学領域の研究・教育を推進する人材および診断や治療に必要な新たな技術の開発とその実践にかかわって高度専門医療を担う人材を養成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

(概要)

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（医療科学）の学位を授与します。

- 人間に関する幅広い知識を身に付け、生命の尊厳と倫理を尊重する人間観を学んでいる。
- 人間科学の学習に必要な基礎知識と技能を修得している。
- 人間の健康と疾病に関する医学的知識を修得している。
- 臨床検査技術に関する基礎的な知識、技能を身につけ、臨床検査技師に必要な専門科目を修得して、臨床検査技師として備えるべき基礎学力、臨床能力ならびに倫理性を身につけている。
- 検査技術分野における研究開発の実験を経験し、自ら研究を推進する基礎学力、情報収集能力ならびに自学自習能力を獲得している。
- チーム医療の役割を理解し、臨床検査技師として行動する基礎能力とコミュニケーション能力を獲得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

(概要)

学士（医療科学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

臨床検査分野の基礎的知識と専門知識、関連技能、倫理性、臨床検査技師として社会に貢献する姿勢と基礎能力を養うことを目的として、臨床検査技師教育に必要な科目を中心に広い検査技術分野の科目を配した教育課程を編成・実施しています。

●順次性に関する方針

教養、理系基礎科目で構成する基礎科目および医科学の基礎科目で構成する専門基礎科目を学修した後に専門科目の学修にすすむようにしています。専門科目では臨床検査技師として必要な専門知識と技能の修得を目的とした科目を中心に授業、実習で構成し、その履修を終えた後、病院における臨床検査技師の実践力を養うために病院実習を、さらに医療人としてのチームワークを形成するための医学類、看護学類との合同科目を置いて医療人としての能力を学修するようにしています。また、臨床検査分野に加えて広く医科学各分野の研究の基礎を学ぶための卒業研究を設定しています。

●実施に関する方針

医療科学専攻へは3年次進級の際に選択します。基礎科目、専門基礎科目、一部の専門科目の学修状況により、進級判定を行います。病院実習は臨床検査技師として必要な専門知識、技能の科目修得を条件として認めています。

●特色

検査技術を中心に医療分野での専門知識と技能、臨床・チームワーク能力を養う授業・実習を中心とした教育を提供しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

(概要)

●求める人材

医科学の分野に強い関心をいただき、医科学分野の研究や医学・医療分野の検査技術において国際的に活躍する意欲を持つとともに、チーム医療での役割を理解し、行動することができる柔軟性を持った人材を求めています。

●入学までに学んでおいてほしいこと

数学、生物、物理、化学についての基礎的な知識と理解、日本語の文章表現力、英語の読み書き会話の能力を有し、医学や医療に関して関心のある分野と将来に対する希望を明確にもつことが望ましい。

(入学者選抜方針)

●個別学力検査等（前期日程）

広い基礎学力と数学、理科、英語の学力さらに医療を志す動機、適性、感性、社会的適応力などを総合的に評価します。

<p>●推薦入試 医療人を志向する強い動機と適性、人を愛する感性、社会貢献への熱意に加えて、医科学を学ぶために必要な基礎学力を総合的に評価します。</p> <p>●国際 バカロレア 特別入試 医療や医科学を志向する動機と適性、人を愛する感性、社会貢献への熱意に加えて、医科学を学ぶために必要な基礎学力を総合的に評価します。</p> <p>●私費外国人留学生入試 医療に対する高い関心、そして入学後に日本人とともに医療科学を学ぶのに必要な基礎学力と協調性を総合的に評価します。</p> <p>●編入学試験 医療人としての更なる飛躍を目指す動機に加えて、大学で基礎あるいは臨床医学を修得するに足る基礎知識ならびに思考力や学力などを総合的に評価します。</p> <p>●私費外国人留学生 特別コース入試（編入学） 【国際医療科学人養成プログラム】（編入学）</p> <p>(1) 求める人材 医療を取り巻く状況は急速に変化するなかで、感染症や生活習慣病等に関わる国際的な諸問題に対して学問的な関心を示し、多様な観点から事象を分析できる応用力を備えた人材を求める。</p> <p>(2) 入学者選抜方針 高い英語力・専門分野の知識を習得するための基礎学力とともに、医療科学分野の諸問題に対する独自の視点と分析力を、提出書類及び個別面接により総合的に評価する。</p>
---

<p>学部等名 体育専門学群</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/">http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/</a>）</p>
<p>（概要） 優れた運動技能と幅広い運動経験を基盤に、体育・スポーツ及び健康に関する総合的な知識と最新の科学的知見を活かしながら、組織を的確にマネジメントして諸々の問題解決を図ることのできる知・徳・体を具備した体育・スポーツ界のリーダーを育成することを目的とします。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>（概要） 筑波大学学士課程の教育目標及び学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（体育学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●幅広い運動に関する基本的な技能と初心者に対する指導力を身に付けている。</li> <li>●特定の運動種目に関する高い運動能力とアスリートに対する指導力を身に付けている。</li> <li>●体育・スポーツ・健康に関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。</li> <li>●体育・スポーツ・健康に関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。</li> <li>●嘉納治五郎先生の「精力善用・自他共栄」「一世化育」の理念を理解し、体育・スポーツ組織をマネジメントするためのリーダーシップやコミュニケーション力（外国語能力を含む）を身に付けている。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html</a>）</p>
<p>（概要） 学士（体育学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な方針 主専攻は体育学1専攻です。体育・スポーツ・健康に関する知識や理念の学習と運動実践や健康科学に関する演習を通して、体育・スポーツ界のリーダーに必要な知・徳・体を</li> </ul>

身に付けます。体育学を創設した嘉納治五郎先生の理念に触れつつ、これからの社会に必要な体育・スポーツのあり方についても追究します。

●順次制に関する方針

1年次及び2年次には、専門基礎科目を中心に、体育・スポーツ・健康の領域にかかわる理論的な授業と臨海実習などの実技授業を通して、基礎的・総合的な知識と技能を身に付けます。嘉納治五郎先生の理念と行動についても学びます。また、運動実践に関する自身の課題を科学的データに基づいて分析するという学習を行います。この学習成果に基づいて、自らの履修計画やトレーニング実践を設計するとともに、自身の課題の解決のためのプログラムを創り出して、課題解決に取り組みます。

3年次には、それまでに修得した実技レベルや学科レベルを自己評価・点検しつつ、体育・スポーツに関するより専門的な理論を社会との関係と絡めて学修し、知識・技能および指導力のさらなる向上を図ります。また、自分自身の関心の高いテーマを学問的に追究するために、卒業研究領域（39領域）の一つを選び、当該分野の最新の科学的知見を学修し、3、4年次で卒業論文を完成させることとなります。これは学群教育の到達点であると同時に、大学院進学への足がかりにもなります。

●実施に関する方針

卒業研究領域の選択を含めて、各授業科目の選択は学生の自主性に任せられていますが、基本的な履修モデルを作成し、学修プロセスを示しています。本学群では、教育課程全体を通じて学生の課題解決学習が重視されており、特に実技授業においては映像データなどの豊富なデータベースが用意され、自学自習できるように工夫されています。

●特色

夏には、海外からの研究者の講義を英語で学ぶ機会が提供されているとともに、海外からの学生との交流も行われます。さらに本学群では課外活動としての運動部活動による教育も重視しています。課外活動では、自らの競技力の向上を図るとともに、専門性の高い科学的指導法を学びます。また、豊かな人間性と国際交流に貢献する姿勢を身に付けることも目指しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

●求める人材

体育・スポーツ・健康に関する領域に強い関心があり、教養を高め運動経験の幅を広げるだけでなく、これまで身につけた運動技能や関連する知識をさらに高めて、体育・スポーツの国内的・国際的発展に貢献する情熱と意欲を持った人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高校の保健体育で学習する内容を理解し、さらに英語の基礎を習得していることが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

優れた学力及び運動能力を有し、体育・スポーツ・健康の分野での活躍が期待できる人材を選抜するために、学力と運動能力の両方を対等に評価します。

●推薦入試

ひとつの運動種目に抜群の技能を有し、体育・スポーツ・健康の分野での活躍ができる人材を選抜するために、本学群における修学力とともに、運動技能を重点的に評価します。

●AC入試

A（問題解決型）：ひとつの運動種目における優れた技能を重視し、自主的な実践活動における科学的知識の活用と論理的思考能力を多面的に評価します。

B（競技型）：抜群の運動技能を有し、日本代表として権威ある国際大会で活躍できる競技力を重点的に評価します。また、基礎学力と表現力についても総合的に評価します。

●国際 バカロレア 特別入試

体育・スポーツ・健康に強い関心を持ち、将来、体育・スポーツ・健康の分野の国際舞台で活躍できる学力、運動能力、国際性を総合的に評価します。

●帰国生徒 特別入試（4月入学）

ひとつの運動種目に高度な技能および語学力（英語）を含む基礎学力を有し、将来国際舞台上で活躍できる人材を選抜するために、学力（語学力を含む。）と運動能力並びに国際的なセンスや行動力を評価します。

●私費外国人留学生入試

体育・スポーツに対する高い関心と優れた運動能力、そして大学での学修に必要な基礎学力・思考力・日本語能力を総合的に評価します。

学部等名 芸術専門学群

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/>）

（概要）

学際的・国際的な視野と確かな学力を持ち、かつ柔軟な発想力と豊かな表現力を備え、創造的活力に満ちた美術及びデザインの専門家を養成することを目的とします。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

（概要）

芸術に関する学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（芸術学）の学位を授与します。

●創造的表現力

芸術に関する独創的で柔軟な発想や思考を、美術・デザインの専門的知識・技能を駆使して適切に表現できる。

●問題解決能力

現代における美術・デザインに関する諸問題を自発的に見出し、習得した知識・技能を活用して柔軟な考察と的確な判断によって解決できる。

●幅広い知識に基づく論理的思考力

学際的・国際的な教育による幅広い視野と専門的な知識・経験に基づき、多様な諸課題に対して論理的な思考ができる。

●感性豊かなコミュニケーション能力

形による感性の発信力や感性を共有し協働する能力を培い、豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーションができる。

●自律的・社会的な創造活動のための基礎力

社会における芸術の意義と役割を理解し、美術・デザインの専門家として自律的に創造活動を継続できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

（概要）

学士（芸術学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

総合大学における芸術教育の場という特色を生かし、芸術学、美術、構成、デザインの各主専攻分野において、広く学際的な教養と深い専門能力に芸術的感性を統合した、創造性に溢れた人材を育成します。

芸術・デザインの諸領域の基礎を横断的に履修する専門基礎課程と、4つの主専攻分野の専門科目によって芸術の専門的基盤を形成します。さらに、学年や専門分野の枠を超えた横断的科目を配置することによって感性豊かなコミュニケーション能力を養います。

●順次性に関する方針

基礎と専門が統合されたカリキュラム

1・2年次では、多様な専門に繋がる基礎科目を必修とし、芸術に関する創造的表現力、問題解決能力、論理的思考力を柔軟に使いこなす基盤を養います。また、専門領域の基礎を学ぶと同時に学際的・国際的な講義・演習を選択的に履修することで専門的な知識の活

用力を養います。

3年次以降に、諸領域におけるより高度な専門科目の講義や演習・実習を通じ、多様な諸課題に対する論理的思考力と横断的知識を活かす卓越した表現力や説得力を養い、卒業研究へと結びつけます。

#### 卒業研究

4年間の集大成である卒業研究は学生の自立を保证するものです。卒業研究の指導では、学生自ら研究テーマを見出し、思考し、表現することにより、美術・デザインの専門家として自律的に創造活動を行う基礎力を養い、感性溢れる表現能力や感性を共有し豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーション能力を磨きます。すべての卒業研究は学外の公立美術館で公開展示され、卒業研究作品集の公刊とともに社会の評価を仰ぎ、優秀作品は顕彰され大学に収蔵されます。

#### ●実施に関する方針

##### 学生の個性を尊重した教育

芸術教育において学生の個性は最大限に尊重されるべきものです。諸領域における専門教育は可能な限り少人数クラスとし、対話を通して個性を伸ばす指導を行います。

##### 「現場」と繋がる授業

全学の学生・教員や市民と協働する学際的カリキュラムを配置し、企業、行政、美術館、教育現場等との協働や教育交流など、実務と直結した教育を実施し、時代に即した高いコラボレーション力と学際的な視野を持つ学生を育成します。

##### 創造的表現力と論理的思考力の両立

制作と論文執筆の二つを卒業要件とすることで、ものづくりの実践による創造的表現力と、客観的・論理的な思考方法を基盤とした確実な文章表現力の習得をめざします。

世界的視野に基づく創造力の育成国際交流協定等に基づく交換留学や研究交流、作品交流展、国際インターンシップなどの機会を活用し、国際的コミュニケーション能力と世界的視野に立った創造力を育成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/page-84#b-497404>）

（概要）

#### ●求める人材

芸術を追求する熱意のある人材、社会的・国際的観点から創造活動にチャレンジする意欲のある人材、多領域に関わる知識や方法に基づいた美術・デザインによる表現によって社会に貢献する意欲ある人材を求めています。

#### ●入学までに学んでおいてほしいこと

高校の保健体育で学習する内容を理解し、さらに英語の基礎を習得していることが望ましい。

（入学者選抜方針）

#### ●個別学力検査等（前期日程）

幅広い基礎学力と芸術に関する能力を総合的に評価します。

#### ●個別学力検査等（後期日程）

基礎学力とともに芸術に対する適性や主体性などを総合的に評価します。

#### ●推薦入試

高等学校における学習や活動の成果に加え、芸術に関する資質、能力、意欲を評価します。

#### ●AC入試

問題発見・解決能力、行動力などの一般的能力に加え、芸術の専門領域に関する意欲、資質を評価します。

#### ●国際 バカロレア 特別入試

幅広い基礎学力、問題意識・解決能力、行動力などの一般的能力、芸術に関する資質や意欲を総合的に評価します。

#### ●帰国生徒 特別入試（4月入学）

高等学校（中等教育）における学習や活動の成果に加え、芸術に関する資質、能力、意欲を評価します。

- 私費外国人留学生入試  
高等学校（中等教育）における学習の成果や日本語能力に加え、芸術に関する資質、能力、意欲を評価します。
- 私費外国人留学生 Japan-Expert（学士）プログラム 特別入試  
高等学校（中等教育）における学習の成果や日本語能力に加え、提出された書類や作品等も含め、芸術に関する資質や意欲を総合的に評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/organization/colleges/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
—	11人	—					11人
本部	—	21人	18人	1人	16人	0人	56人
人文社会系	—	79人	80人	4人	41人	0人	204人
ビジネスサイエンス系	—	27人	18人	0人	3人	0人	48人
教理物質系	—	65人	68人	25人	54人	0人	212人
システム情報系	—	69人	80人	6人	46人	0人	201人
生命環境系	—	76人	77人	10人	67人	0人	230人
人間系	—	44人	29人	4人	31人	0人	108人
体育系	—	42人	41人	2人	43人	0人	128人
芸術系	—	27人	17人	0人	15人	0人	59人
医学医療系	—	125人	102人	166人	99人	1人	493人
図書館情報系	—	19人	20人	5人	15人	0人	59人
計算科学研究センター	—	15人	9人	3人	13人	0人	40人
生存ダイナミクス研究センター	—	5人	0人	4人	10人	0人	19人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		1173人					1173人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="https://trios.tsukuba.ac.jp/">https://trios.tsukuba.ac.jp/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
カリキュラムの改善や教授法の向上、単位の実質化、成績評価の厳格化など教育の質の向上と保証に向けた総合的な取組を「筑波大学FD」と位置付け、種々のエビデンスに基づき恒常的に教育改善に取り組んでいる。 具体的には、学生による授業評価結果、各種ステークホルダー（卒業生や企業等）へのアンケート調査結果などを用いて、現状の傾向の把握・分析を行うとともに、得られた知見をFD研修会や全学及び各教育組織の教育会議等で共有し、改善に活用している。これらにより、全学・各教育組織・各教員のすべてのレベルにおいてFD活動を実施している。							

また、本学の教育宣言である「学群スタンダード」及び「大学院スタンダード」には、筑波大学FD及び各教育組織における教育の質の保証と改善の方策も含めて、全学及び各教育組織の方針が明記されており、これを全教員が共有することで、PDCAサイクルの一層組織的な展開を可能としている。各教育組織は、毎年度、FD活動の実施状況を教育担当副学長に報告し、教育担当副学長はこれを「筑波大学FD活動報告書」としてとりまとめ、公表している。

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文・文化学群 人文学類	120人	131人	109.2%	480人	539人	112.3%	人	人
人文・文化学群 比較文化学類	80人	81人	101.3%	320人	376人	117.5%	人	人
人文・文化学群 日本語・日本文学 学類	40人	40人	100.0%	160人	184人	115.0%	人	人
社会・国際学群 社会学類	80人	82人	102.5%	340人	403人	118.5%	10人	10人
社会・国際学群 国際総合学類	80人	82人	102.5%	320人	399人	124.7%	人	人
人間学群 教育学類	35人	35人	100.0%	140人	153人	109.3%	人	人
人間学群 心理学類	50人	53人	106.0%	200人	218人	109.0%	人	人
人間学群 障害科学類	35人	37人	105.7%	140人	157人	112.1%	人	人
生命環境学群 生物学類	80人	80人	100.0%	320人	386人	120.6%	人	3人
生命環境学群 生物資源学類	120人	120人	100.0%	500人	604人	120.8%	10人	11人
生命環境学群 地球学類	50人	51人	102.0%	200人	227人	113.5%	人	2人
理工学群 数学類	40人	41人	102.5%	160人	167人	104.4%	人	人
理工学群 物理学類	60人	61人	101.7%	240人	267人	111.3%	人	3人
理工学群 化学類	50人	51人	102.0%	200人	209人	104.5%	人	1人
理工学群 応用理工学類	120人	124人	103.3%	500人	547人	109.4%	10人	12人
理工学群 工学システム学類	130人	134人	103.1%	520人	571人	109.8%	人	2人
理工学群 社会工学類	120人	123人	102.5%	480人	527人	109.8%	人	1人
情報学群 情報科学類	80人	86人	107.5%	340人	386人	113.5%	10人	13人
情報学群 情報メディア創成 学類	50人	55人	110.0%	220人	255人	115.9%	10人	11人
情報学群 知識情報・図書館 学類	100人	103人	103.0%	420人	458人	109.0%	10人	12人
医学群 医学類	135人	135人	100.0%	813人	836人	102.8%	5人	5人

医学群 看護学類	70人	70人	100.0%	300人	315人	105.0%	10人	10人
医学群 医療科学類	37人	37人	100.0%	154人	159人	103.2%	3人	1人
体育専門学群	240人	251人	104.6%	960人	1,033人	107.6%	人	人
芸術専門学群	100人	105人	105.0%	400人	464人	116.0%	人	人
合計	2,102人	2,168人	103.1%	8,827人	9,840人	111.5%	78人	97人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文・文化学群	234人 (100%)	39人 (17%)	164人 (70%)	31人 (13%)
社会・国際学群	198人 (100%)	12人 (6%)	151人 (76%)	35人 (18%)
人間学群	131人 (100%)	35人 (27%)	78人 (59%)	18人 (14%)
生命環境学群	299人 (100%)	207人 (69%)	67人 (22%)	25人 (9%)
理工学群	534人 (100%)	408人 (76%)	106人 (20%)	20人 (4%)
情報学群	284人 (100%)	114人 (40%)	156人 (55%)	14人 (5%)
医学群	234人 (100%)	27人 (12%)	197人 (84%)	10人 (4%)
体育専門学群	248人 (100%)	57人 (23%)	158人 (64%)	33人 (13%)
芸術専門学群	104人 (100%)	35人 (34%)	52人 (50%)	17人 (16%)
合計	2,266人 (100%)	934人 (41%)	1,131人 (50%)	201人 (9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【進学先】 筑波大学、東京工業大学、東京大学、シェフィールド大学、早稲田大学、東京芸術大学				
【就職先】 筑波大学附属病院、富士通株式会社、全日本空輸株式会社、株式会社NTT データアイ、株式会社サーバーエージェント、東日本旅客鉄道株式会社、野村證券株式会社、楽天株式会社、日本放送協会、ヤフー株式会社				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
人文・文化学群 人文学類	123人 (100%)	99人 (80.5%)	18人 (14.6%)	6人 (4.9%)	0人 (0%)

人文・文化学群 比較文化学類	87人 (100%)	57人 (65.5%)	24人 (27.6%)	4人 (4.6%)	2人 (2.3%)
人文・文化学群 日本語・日本文化学類	46人 (100%)	35人 (76.1%)	4人 (8.7%)	7人 (15.2%)	0人 (0%)
社会・国際学群 社会学類	90人 (100%)	67人 (74.4%)	16人 (17.8%)	0人 (0%)	7人 (7.8%)
社会・国際学群 国際総合学類	96人 (100%)	61人 (63.5%)	29人 (30.2%)	3人 (3.1%)	3人 (3.1%)
人間学群 教育学類	35人 (100%)	31人 (88.6%)	4人 (11.4%)	0人 (0%)	0人 (0%)
人間学群 心理学類	53人 (100%)	49人 (92.5%)	4人 (7.5%)	0人 (0%)	0人 (0%)
人間学群 障害科学類	38人 (100%)	32人 (84.2%)	5人 (13.2%)	1人 (2.6%)	0人 (0%)
生命環境学群 生物学類	97人 (100%)	76人 (78.4%)	6人 (6.2%)	4人 (4.1%)	11人 (11.3%)
生命環境学群 生物資源学類	144人 (100%)	113人 (78.5%)	10人 (6.9%)	4人 (2.8%)	17人 (11.8%)
生命環境学群 地球学類	57人 (100%)	49人 (86.0%)	3人 (5.3%)	1人 (1.8%)	4人 (7.0%)
理工学群 数学類	41人 (100%)	37人 (90.2%)	3人 (7.3%)	1人 (2.4%)	0人 (0%)
理工学群 物理学類	63人 (100%)	53人 (84.1%)	9人 (14.3%)	1人 (1.6%)	0人 (0%)
理工学群 化学類	54人 (100%)	52人 (96.3%)	2人 (3.7%)	0人 (0%)	0人 (0%)
理工学群 応用理工学類	128人 (100%)	106人 (82.8%)	18人 (14.1%)	4人 (3.1%)	0人 (0%)
理工学群 工学システム学類	137人 (100%)	115人 (83.9%)	17人 (12.4%)	5人 (3.6%)	0人 (0%)
理工学群 社会工学類	123人 (100%)	102人 (82.9%)	20人 (16.3%)	1人 (0.8%)	0人 (0%)
情報学群 情報科学類	85人 (100%)	72人 (84.7%)	12人 (14.1%)	1人 (1.2%)	0人 (0%)
情報学群 情報メディア創成学類	52人 (100%)	41人 (78.8%)	10人 (19.2%)	1人 (1.9%)	0人 (0%)
情報学群 知識情報・図書館学類	110人 (100%)	93人 (84.5%)	12人 (10.9%)	5人 (4.5%)	0人 (0%)
医学群 医学類	120人 (100%)	103人 (85.8%)	14人 (11.7%)	3人 (2.5%)	0人 (0%)
医学群 看護学類	72人 (100%)	67人 (93.1%)	4人 (5.6%)	1人 (1.4%)	0人 (0%)
医学群 医療科学類	42人 (100%)	35人 (83.3%)	4人 (9.5%)	3人 (7.1%)	0人 (0%)
体育専門学群	254人 (100%)	234人 (92.1%)	16人 (6.3%)	4人 (1.6%)	0人 (0%)
芸術専門学群	107人 (100%)	85人 (79.4%)	21人 (19.6%)	1人 (0.9%)	0人 (0%)
合計	2,254人 (100%)	1,864人 (82.7%)	285人 (12.6%)	61人 (2.7%)	44人 (2.0%)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 20 年度から「シラバス作成のためのガイドライン」を作成し、それに沿って授業計画（シラバス）を作成している。</li> <li>改定を行い、令和 2 年度から新ガイドラインに基づきシラバスを作成・公開する。</li> </ul>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学士課程における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにした「筑波大学 学群スタンダード」を作成し、広く社会に公表している。</li> <li>卒業の認定に当たっての基準については、教育組織ごとに「履修細則」を定め公表している。</li> </ul>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文・文化学群	人文学類	124 単位	有	45 単位
	比較文化学類	124 単位	有	45 単位
	日本語・日本文化学類	124 単位	有	45 単位
社会・国際学群	社会学類	126 単位	有	45 単位
	国際総合学類	126 単位	有	45 単位
人間学群	教育学類	124 単位	有	45 単位
	心理学類	124 単位	有	45 単位
	障害科学類	124 単位	有	45 単位
生命環境学群	生物学類	124 単位	有	45 単位
	生物資源学類	124 単位	有	45 単位
	地球学類	124 単位	有	45 単位
理工学群	数学類	124 単位	有	45 単位
	物理学類	124 単位	有	45 単位
	化学類	124 単位	有	45 単位
	応用理工学類	124 単位	有	45 単位
	工学システム学類	126 単位	有	45 単位
	社会工学類	124 単位	有	45 単位
情報学群	情報科学類	125 単位	有	45 単位
	情報メディア創成学類	124 単位	有	45 単位
	知識情報・図書館学類	124 単位	有	45 単位
医学群	医学類	200 単位	有	45 単位
	看護学類	124 単位	有	45 単位
	医療科学類	124 単位	有	45 単位
体育専門学群	—	124 単位	有	45 単位
芸術専門学群	—	124 単位	有	45 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページ ( <a href="https://www.tsukuba.ac.jp/education/gpa.html">https://www.tsukuba.ac.jp/education/gpa.html</a> )		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
○キャンパス・施設の概要： <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/campus.html">http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/campus.html</a>
教室案内： <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses/pdf/kyousitsuannai.pdf">http://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses/pdf/kyousitsuannai.pdf</a>
○運動施設： <a href="http://www.sapec.tsukuba.ac.jp/?page_id=442">http://www.sapec.tsukuba.ac.jp/?page_id=442</a>
○交通・キャンパスマップ： <a href="http://www.tsukuba.ac.jp/access/index.html">http://www.tsukuba.ac.jp/access/index.html</a>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
学 群		535,800 円	282,000 円	円	
大学院	ビジネス科学研究科 (法曹専攻)	804,000 円	282,000 円	円	
	上記以外	535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>○クラス制度、学生担当教員制度、公的學生組織</p> <p>本学には、全学的立場から学生生活を支える教員と職員の組織が設置されています。学生に対する指導・助言の場と学生からの意向反映の場を異なる三つのレベル ①クラス、②学類・専門学群、③全学 にそれぞれ設置することで、柔軟で深い教育を実践しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス制度：学生が構成員となるもっとも身近な組織。各クラスにはクラス担任教員が配置され、教育活動および 学生生活に関する諸事項を伝えるとともに、学生からの相談を受けています。</li> <li>・学生担当教員制度：学生生活に関わる諸問題を各学類・専門学群の枠組を超えて全学的視野に立つて対処する組織。学生担当教員は、学生担当教員会議において学生生活指導に関する諸問題を全学的立場から討論し、共通の理解のもとに学生生活指導等にあたります。</li> <li>・公的學生組織：クラスを基礎母体として、学類・専門学群、そして全学へと、より大きなレベルでの学生組織が設置されています。下位組織から選出された代表が、上位組織を構成する公的學生組織には、次の三つがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①クラスレベル：クラス会議 ②学類・専門学群レベル：クラス代表者会議</li> <li>③全学レベル：全学学類・専門学群代表者会議(全代会)</li> </ul> </li> </ul> <p>公的學生組織の最上位に位置するのが全代会です。全代会には、運営、教育課程、学内行事、厚生、課外活動、広報の専門委員会があり、学生の意見や主張を反映させるためにアンケート、公聴会を開催しています。この過程で集約された学生の意向は、懇談会を通じて副学長に伝えられます。</p> <p>○奨学金・修学支援</p> <p>学生の修学のために入学科・授業料の免除及び奨学金の給付等の様々な経済支援を行っています。本学が取り扱っている奨学金制度としては、筑波大学学生奨学金「つくばスカラシップ」、日本学生支援機構、地方公共団体、民間奨学団体等があります。これらの奨学金制度においては、それぞれの条件(学業成績、人物、健康状態及び家計の経済状況等)により認められたものが対象になります。</p> <p>○留学生支援</p> <p>留学生の健全な修学のため、以下の支援を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規渡日留学生を対象に渡日直後にオリエンテーションを実施し、留学生の修学や在留管理、学生生活に必要な情報を日本語と英語で発信しています。</li> <li>・留学生を支援するチューターを留学生1人につき1人配置し、不便なく日常生活や学習ができるよう渡日直後の支援を実施しています。また、「Ask Us Desk」を設置し、日本人学生がサポーターとなり、留学生への学内外の場所案内、諸手続き支援、履修や学生生活に関する質問への回答など、</li> </ul>
--

幅広い分野でサポートを行っています。

- ・グローバル・コモンズ機構国際交流支援部門相談指導チームでは、留学生の修学・生活上の問題や精神的・身体的な問題に対し、日本語、英語、中国語で相談できる体制を整え、留学生のみならず、教職員からの相談にも対応しています。
- ・在留管理の徹底のため、在留期限の近い全ての留学生に対し、3か月前からメールによる注意喚起を行い、在留期間の適切な更新を促しています。また、在留期間更新等の手続きに必要な証明書の発行を行っています。
- ・地域交流団体等と連携を図り、地域社会と留学生との活発な異文化交流を可能にする情報を発信しています。
- ・本学の特定基金である留学生後援会基金では、学内外からの寄附を原資として、留学生を対象に一時的貸出や不測事態への支援、アパートの連帯保証等を実施しています。

#### ○障害学生支援

本学では、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア（DAC）センターを中心に、各教育組織・事務組織等と連携をしながら、障害のある学生へ主に以下のような修学支援（学習面での支援）を行っています。

##### ①入学時相談

障害のある新入生を対象に、各教育組織の関係教職員、共通科目に関わる各センターの教職員、障害学生支援の専門スタッフによる入学時ガイダンスを実施しています。ガイダンスでは、全学的な支援内容や、共通科目の履修についての説明、個別相談等を行っています。また、各教育組織においても、障害学生支援の専門スタッフによる助言のもと、個々の障害のある学生に対する配慮事項について話し合いをする機会を設けています。

##### ②授業に関わる支援

修学に関する個別面談を行い、必要に応じて「配慮依頼文書」を作成しています。また、支援機器の貸出、構内移動支援（福祉タクシーの利用を含む）、ピア・チューター（学習補助者）による修学支援などを行っています。

##### ③ピア・チューター制度

学群及び大学院に在籍する障害のある学生に対して、必要に応じてピア・チューターを配置しています。ピア・チューターは、一般の学生を対象に広く募集しており、毎年多くの学生が積極的にこの活動に参加しています。自由科目（特設）「障害学生支援技術」を開講し、ピア・チューターの養成も行っています。ピア・チューターによる支援活動に対しては、規定に基づいて大学から謝金を支給し、一定時間の支援活動を行った希望者には学長名の障害学生支援活動証明書を発行しています。

#### ○LGBT等学生への支援

本学では、セクシュアル・マイノリティに関して、大学の基本理念とガイドラインを策定し、対応を行っています。これまでに、特にトランスジェンダーや性別に違和を持つ学生には、氏名の変更や健康診断及び教育実習等の個別の対応、キャリア相談や就職相談等を行っています。

### b. 進路選択に係る支援に関する取組

#### （概要）

本学では、学生部就職課及びDACセンターを中心に、各教育組織と連携し、授業やガイダンス、個別相談、イベント等を通じて、学生が自分自身について考えながら社会について視野を拓き、将来に向けて具体的な準備を進められるよう以下のような支援を行っています。

##### ①個別キャリア相談

進路選択や就職活動をサポートするために、専任の相談員を配置して個別相談を行っています。

##### ②キャリア形成・就職支援

- ・キャリア形成力を高める科目の開設（「キャリアデザイン入門～世界に羽ばたく未来の自分～」/「キャリアデザイン～働く自分～」/など）
- ・ガイダンス・イベント等の実施（学内合同企業説明会/インターンシップ講座/就職準備講座/OB・OG座談会など）
- ・試験対策講座（教員試験対策講座/公務員合同業務説明会など）
- ・つくばキャリアポートフォリオ（CARIO）及び自己成長診断ツール（SAGASU）の活用
- ・専用webサイトの開設

##### ③外国人留学生支援

- ・留学生向けの個別キャリア相談
- ・日本で働くための準備講座
- ・留学生のためのキャリア・就職支援講座

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

○保健管理センター

学生に対する応急診療や精神保健相談を行います。精神保健診療は専門の精神科医が相談・治療に応じます。

○総合相談窓口・学生相談室

臨床心理士・大学カウンセラー等の専門資格を持ったカウンセラーが相談に応じます。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/>